

修 士 課 程

| | | | | | |
|--|----------|------|-------------------|-------------------|-----------|
| 教科 No. | 71001 | 授業科目 | 作曲実習 1～4 作曲演習 1～4 | 単位数 | 実習各3 演習各2 |
| 担当教員 | 作曲専攻専任教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 作曲・指揮専攻（作曲）1・2 回生 | |
| <p>【授業目標】 独自の音楽世界の創作探求の更なる展開を課題とする。</p> <p>【授業概要】 より多くのイベントに参加し、企画制作を経験しつつ、作曲家としての自立を目標に、音楽上の諸問題の考察と研究を行いつつ、修士作品のみ提出することも、また音楽作品の実作に必要な作品研究を行い、修士論文を共に平行して作成する選択もできる。</p> <p>【評価方法】 すべての活動を通して総合的な評価を行う。</p> <p>【履修上の注意】 全回生を通して、常時継続的に作品制作、発表を行う。</p> <p>【教科書】 授業中に適宜指示する</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜指示する</p> <p>※備考 修士論文を選択しない学生は、「作曲法研究1～2」を必ず履修すること。</p> <p>○教員からのメッセージ</p> <p>前田 守一 音楽作品に書き込まれた各々の音符には、作曲家の思いがいっぱい込められていると思います。誰でもたやすく読み取れる情報があれば、いくつかのデータを組み合わせることによって、初めて読み取れる情報もあります。巨匠と言われる音楽家でさえ、飽きる程接した音楽作品からも新たに発見をすると言います。作曲理論、音楽理論という、どうにも「地味」「単調」等の感を拭えませんが、名曲と言われる音楽作品から、より多くのことを読み取り、大作曲家と同じ思いを少しでも共有できるとすれば、何ものにも代え難い感動を得られるのではないのでしょうか。立場を変え、作曲家をめざす若き作曲専攻の学生は、そのような術を得たとすれば、意のままに操れる魔法の如き技を持ち得たと同じ位の自信にもなるのではないのでしょうか。</p> <p>岡田加津子 本校における作曲専攻は、基本的に和声法、対位法、楽式論、分析法などの西洋音楽の基礎となるものを身につけた上で、現在、我々が作曲によって何を表現しようとしているのか、そしてそれをどのような手段で表現するかを熟考し、試行錯誤し、成長していくための土台を作る場所として、大変恵まれた環境にあると思います。作曲に欠かせない4つの要素、すなわち「書法」「楽器法」「構成力」「個性」を、十分に習得・認識し、それらを将来自由に駆使できるように、常に感性のアンテナを広げ、日々出会うことを何でも作曲に汲み上げるぐらいの気持ちを持って、制作する多くの機会を精力的にこなしていってほしいと思います。</p> <p>中村 典子 作曲理論の基礎をしっかりと固め、同時に古今の音楽作品が現在まで生き続けているのは何故か、大いなる好奇心をはばかせてください。細胞の奥底に隠されているその人固有の独自の音楽が輝き出せるよう、各回生毎に楽曲分析を行います。作曲においては、時が経つにつれて深まってゆくような生命溢れる音楽の創造性を追求してゆきます。この4年間に長い人生におけるすべての可能性をひらくことのできる土台をつくり、創造に必要な力を極限まで磨き抜き、今日のすべてがこれからのすべてとなる大切な時を共有し、一緒につくってゆきましょう。</p> | | | | | |

| | | | | | | |
|---|----------|------|-----------|------------------|------|-------|
| 教科 No. | 71002 | 授業科目 | 作曲法研究 1～4 | | 単位数 | 各2単位 |
| 担当教員 | 作曲専攻専任教員 | | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 作曲・指揮専攻（作曲）1・2回生 | | |
| <p>【授業目標】 作曲専攻学生を対象として作品制作及び修士論文作成のために楽曲分析的側面より専門的な個別指導を行う。</p> <p>【授業概要】 授業の具体的な進め方については、受講生と相談のうえ決定する。</p> <p>【評価方法】 総合的な評価を行う。</p> <p>【履修上の注意】 各々定められたプログラムにより課題に取り組む。</p> <p>【教科書】 授業中に指示する。</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜紹介する。</p> <p>※備考 「作曲実習」「作曲演習」と密接な関連性をもつ。</p> | | | | | | |

| | | | | | |
|---|-----------|------|---------------|-----------------|-------|
| 教科 No. | 71003 | 授業科目 | 器楽実習（ピアノ） 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | ピアノ専攻専任教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（ピアノ） 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 演奏家として必要な、より高度なピアノ演奏法を習得する。楽曲の深い分析とその表現法を研究する。修士演奏のための準備と演奏。</p> <p>【授業概要】 任意のテーマを設定し、それに沿ったプログラム編成の方法を研究する。ピアノ演奏法の応用的な技術を学び研究する。修士演奏Ⅰ：80分のプログラムを準備し習得する。修士演奏Ⅱ：60分のプログラムを準備し習得する。修士演奏Ⅲ：45分のプログラムを準備し習得する。</p> <p>【評価方法】 大学内の講堂で、公開の修士演奏試験を行い、それによって評価する。</p> <p>【履修上の注意】 長時間のプログラムを演奏するので、積極的かつ計画的に準備すること。</p> <p>【教科書】 指導教員の指示により適宜選択する。</p> <p>【参考書等】 指導教員の指示により適宜選択する。</p> <p>○教員からのメッセージ</p> <p>阿部裕之 生涯使えるピアノ演奏のための基礎を重視して欲しい。タッチのための基本的技術、様々な音色を表現するタッチ、テンポのコントロール、作曲家の様式への理解、芸術への広範囲な関心を持ち各個人の人間性を深めて欲しい。</p> <p>坂井千春 人生とは、卒業してからのほうが長いものです。そして芸術の探求に終わりはありません。独り立ちしてからも正しい理解が続けられるようになるための、音楽のあらゆる基礎を学ぶこと、音楽を通して密度の濃い人生に触れること、振り返っても爽りある大学生活だったと思えるようなレッスン時間を、皆さんと分かち合いたいと思います。</p> <p>砂原 悟 私たちのもっとも大切な使命は、偉大な先人たちの作品をより深く理解し、演奏を通してそれを伝えていくことだと思います。精神面と物理面のバランスの取れた演奏家になっていただきたいと切に願っています。</p> <p>上野 真 CD、DVD、ネットなどで音楽がいつでも、幾らでも聴くことの出来る現代、どのような「音楽作り」がふさわしいのか…10代、20代の学生の皆さんは、なるべくバロックから近現代までの中広いレパートリーを勉強する事をまず勧めたいと思います。また様々な練習曲、教則本などにも目を通し、自分に合った練習の方法を見つける事が重要です。国、時代、作曲家、個々の作品毎の様式の違いを感じ取る審美眼を養い、理想的な演奏スタイルを模索して欲しいと願っています。</p> <p>野原みどり 皆さんにはただピアノを上手に弾けるだけではなく、芸術家になって欲しい。その為に必要な豊かな感受性を育むこと、それを表現する為の無理の無い合理的な奏法を身に付けることが重要です。学ぶことは意欲さえあればいつでもどこでも出来るものですが、一番環境の整った勉強に専念できる今を大切に、様々なことに関心を持ち、自分を磨いて行って欲しいと思います。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|---------------|------|--------------|----------------|-----|
| 教科 No. | 71004 | 授業科目 | 器楽演習（ピアノ）1・3 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 野原みどり（音楽棟206） | | | 開講学期 | 前期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（ピアノ）1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 ラヴェルのピアノ独奏作品についての研究</p> <p>【授業概要】 各々に楽曲を割り当て演奏し、検証する</p> <p>【評価方法】 平常点と演奏</p> <p>【履修上の注意】 最後の授業で担当曲を演奏</p> <p>【教科書】 デュラン版、サラベール版、エシック版等の原典版</p> <p>【参考書等】</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|--------------|------|--------------|----------------|-----|
| 教科 No. | 71005 | 授業科目 | 器楽演習（ピアノ）2・4 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 阿部裕之（音楽棟307） | | | 開講学期 | 後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（ピアノ）1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 M. ラヴェルのピアノ曲を理解する</p> <p>【授業概要】 ラヴェルのピアノ作品を演奏するにあたり、タッチや響きなど実際の問題点を実践を通して研究する。</p> <p>【評価方法】 平常点</p> <p>【履修上の注意】 20世紀初頭の画家、詩人、哲学者などを含むさまざまな当時の芸術を理解することも重要である。</p> <p>【教科書】 個々の楽曲の楽譜</p> <p>【参考書等】</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--------|-----------|------|------------|----------------|-------|
| 教科 No. | 71006 | 授業科目 | 伴奏法演習 I～IV | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | ピアノ専攻専任教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（ピアノ）1・2回生 | |

【授業目標】

他の器楽あるいは声楽との伴奏を行うことによって、お互いの音楽への調和とより深い音楽の創造をめざす。

【授業概要】

器楽の伴奏

アンサンブルの重要性、および伴奏としての役割の認識。相手の楽器特性の理解。楽器に合わせたタッチのコントロール。伴奏相手との音楽の呼吸のあわせ方。音量の調和バランスの取り方。

声楽の伴奏

アンサンブルの重要性、および伴奏としての役割の認識。声の質に合わせたタッチのコントロール。歌詞の理解。歌詞内容を表現するためのタッチコントロール。伴奏相手との音楽の呼吸のあわせ方。音量の調和バランスの取り方。

【評価方法】

特に対象となる試験は行わない。レッスンにおける平常点と学内外での演奏をすることで評価する。

【履修上の注意】

自発的に独奏者（独唱者）との組み合わせを選び、試験やレッスンなどで随時演習を重ねること。できるだけ、全員が履修することが望ましい。

【教科書】

指導教員の指示により適宜選択する。

【参考書等】

指導教員の指示により適宜選択する。

○教員からのメッセージ

阿部裕之

ピアノ以外の楽器や声楽と接する貴重な機会である。伴奏することによって、音楽を総合的に聴き把握する能力を高めることが出来ます。そしてそれは専攻実技に対しても意義深い糧となるでしょう。

坂井千春

歌の伴奏では歌詞の内容をよく理解し、自分も歌えるようにすること。オペラのアリアの場合は全体のストーリーとその場面設定を知ること。弦楽器や管楽器のボーイングやタンギングをよく理解し、同じメロディーは同じように響くよう努力すること。管弦楽伴奏の編曲の場合は、スコアを研究し、オーケストラの響きに近くなるよう努めること。相手の呼吸、バランスに注意すること。すべてピアノのソロにも通じる重要なことです。

砂原 悟

伴奏や室内楽を通して、ピアノという楽器の特質を再認識できると思います。ピアノではどうしてもできないこと、逆にピアノでなくてはできないこと。パートナーをよく聴きましょう。イデー（観念）を具現化する技術が磨かれます。

上野 真

ピアノ以外の楽器や声楽を伴奏し、仲間と一緒に演奏、勉強する事で、室内楽、オーケストラや合唱音楽への理解も深め、総合的な音楽性を養う事に努めて欲しいと思います。それがピアノ・ソロを演奏する際の表現にも直接繋がってくる筈です。

野原みどり

普段独りで演奏することの多いピアニストにとって、他人と音楽を創り上げる共同作業はとても大切で有益なことです。異なる楽器と一つの作品を仕上げるということを通して、ソロの曲の中にもそれらピアノ以外の楽器や演奏形態の要素が存在するという、どの楽器を媒体としていても音楽というのは普遍的なものであることを体感することは、更に音楽に対する理解を深め、ひいてはそれが自らの演奏に反映されることでしょう。

| | | | | | |
|--------|----------|------|----------------|----------------|-------|
| 教科 No. | 71007 | 授業科目 | 器楽実習（弦楽） 1 ～ 4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 弦楽専攻専任教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（弦楽） 1・2回生 | |

【授業目標】

学部レベルで習得した演奏法、楽曲解釈などを、より専門的に研究する。

【授業概要】

1 原典版を含む様々な Edition の比較研究を行い、弦楽器の演奏上、重要な Bowing, Fingering の研究を音楽的・技術的両面から行う。目的は自己の音楽を表現する為に、独自の Edition を作る事である。 2 一つ又は複数のリサイタルのプログラムを企画し、それに基づいてレパートリー作りを行い、演奏・研究する。

【評価方法】

修士演奏試験により評価する。

【履修上の注意】

学位取得の為に三つのコースがあるが、いずれの場合も修士演奏 I（60 分のリサイタル）は必ず行う。

【教科書】

各教員が個別に指定する。

【参考書等】

指導教員の指示により適宜選択する。

○教員からのメッセージ

上村 昇

将来プロの演奏家として成長し続け、同時に次の世代を適切に指導、育成できる能力を身につける事を目標とする。

四方恭子

作曲家の意図を楽譜から読みとる事を勉強し、それを表現できるための右手、左手のテクニックを身につけて欲しいと思います。

豊嶋泰嗣

ソロのみならず、アンサンブルにも積極的に参加してバロックから現代まで幅広いレパートリーの習得を目指してほしいと思います。

| | | | | | |
|--|----------|------|-------------|---------------|-------|
| 教科 No. | 71008 | 授業科目 | 器楽演習（弦楽）1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 弦楽専攻専任教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（弦楽）1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 器楽実習で学んでいる演奏法、指導法の実践を行う。</p> <p>【授業概要】 1 将来、最も重要な課題の一つとなると思われる指導法（特に初心者に対する）の実践と研究を行う。2 学部生と共通の弦合奏の授業でバロック、古典から現代までのレパートリーの演奏・研究をする事によって合奏技術の向上に努めるとともに、大学院生として学部生に対して指導的立場に立つことによって、合奏におけるリーダーシップの取り方を学ぶ。</p> <p>【評価方法】 出席状況等により、平常点で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的かつ計画的な学習を心がける。</p> <p>【教科書】 指導教員の指示により適宜選択する。</p> <p>【参考書等】 指導教員の指示により適宜選択する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------------|------|---------------|-----------------|-------|
| 教科 No. | 71009 | 授業科目 | 器楽実習（管・打楽）1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 管・打楽専攻専任教員および非常勤講師 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（管・打楽）1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 専攻楽器実技個人レッスンによって管楽器・打楽器演奏家としての高度な演奏能力を身につけるとともに、必要な知識を習得する。1回生：教員との個人面談によって研究方針を定め、高度な技術と知識を習得しソリストとしての土台を築く。備考1に続く。</p> <p>【授業概要】 専攻楽器の実技個人レッスン。担当教員と相談の上、履修内容を個別に決定する。 修了までに ＊修士演奏Ⅰおよび修士論文 ＊修士演奏Ⅰおよび修士演奏Ⅱ ＊修士演奏Ⅰおよび修士演奏Ⅲおよびレポート提出のいずれかをこななければならない。修士演奏Ⅰは独奏曲または独奏に準ずる曲（協奏曲 ソナタ等）による一時間程度のリサイタル。備考2に続く。</p> <p>【評価方法】 実技試験による</p> <p>【履修上の注意】 演奏にはその人の全てが表れます。あらゆる領域での陶冶が必要です。</p> <p>【教科書】 担当教員と個別に相談の上、各人の進捗と適性を考慮し決定。</p> <p>【参考書等】 適宜指示する。</p> <p>※備考 2回生：幅広い年代の作品を演奏研究し、ソリストとしてキャリアをスタートするにふさわしい高度な演奏技術と知識を習得する。</p> <p>修士演奏Ⅱは室内楽曲による一時間程度のリサイタル。修士演奏Ⅲは任意の楽曲による一時間程度のリサイタル。修士演奏Ⅰを行うにあたっては、それまでに担当教員の指導による学内または学外でのリサイタルまたはそれに準ずる演奏会を行っていることを必須条件とする。</p> <p>○教員からのメッセージ 大嶋義実（木管楽器） 芸だけでは飽きられます、技術だけでは決まったことしかできません。芸と術を合わせ持った奏者の育成を目指します。</p> <p>呉 信一（金管楽器） ソリスト教育ではありません、「和」すなわち金管楽器特有のアンサンブルの重要性にも！</p> <p>山本 毅（打楽器） 基礎訓練はいくらやってもやりすぎにはなりません。まずは土台を造り固めましょう。また、常に目的意識を持った練習が大切です。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------------|------|----------------|------------------|-------|
| 教科 No. | 71010 | 授業科目 | 器楽演習（管・打楽） 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 管・打楽専攻専任教員および非常勤講師 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻（管・打楽） 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 オーケストラスタディ、楽器構造の研究、楽器の歴史研究、演奏史研究等、専攻楽器の演奏に関連する様々な問題を考察し、器楽演奏に関する幅広い知識を習得する。</p> <p>【授業概要】 履修生個別の関心と必要に基づき、担当教員と相談の上、研究テーマと研究方法を決定する。</p> <p>【評価方法】 平常点による。</p> <p>【履修上の注意】 演奏家として必要な研究領域は広く、かつ深い。自発的な問題意識を持って、器楽実習と同等の熱意と労力が必要であると自覚して取り組んでほしい。</p> <p>【教科書】 担当教員と相談の上、各人の進捗と適性を考慮し決定。</p> <p>【参考書等】 適宜指示する。</p> <p>※備考 器楽実習と表裏一体の授業。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------|------|----------------|------------|-----|
| 教科 No. | 71011 | 授業科目 | 合奏演習（オペラ） I・II | 単位数 | 2単位 |
| 担当教員 | 増井信貴（音楽棟204） | | | 開講学期 | 全期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 合奏演習で学んだオーケストラにおける音の響きや音色の多彩な変化などを、オペラを演奏することにより、声楽的なものを含んだ表現法、演奏効果など総合芸術として研究することをテーマとする。</p> <p>【授業概要】 この授業は、学部「オーケストラ」との合同授業である。オペラ作品を演奏することにより、練習に始まり本番までの、シンフォニーコンサートとはちがった、オペラの作り方を演奏を通じて学ぶ。</p> <p>【評価方法】 平常点として評価するが、授業への取り組み態度などは大変重要な要素である。</p> <p>【履修上の注意】 欠席は認めない。やむを得ない理由の時も「欠席・早退・遅刻届」を必ず事前に提出のこと。</p> <p>【教科書】 各セクションの係が製作する。</p> <p>【参考書等】 授業課題のスコア・CDなど</p> <p>※備考 ◎オリエンテーション 4月11日（月）16時20分～ ※全員必ず出席のこと。以降の授業の予定については別途日程表を配布する。</p> <p>院生は「合奏演習（管弦楽）」を履修しない場合でも、「合奏演奏（オペラ） I・II」のみについて登録、履修することが可能である。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|----------|------|--------------|-----------|-------|
| 教科 No. | 71012 | 授業科目 | 合奏演習（室内楽）Ⅰ～Ⅳ | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 器楽専攻担当教員 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 器楽奏者にとって極めて重要なジャンルである室内楽の研究・演奏を行う。</p> <p>【授業概要】 ソナタを除く二重奏～八重奏程度の室内楽曲を演奏・研究する。</p> <p>【評価方法】 1年間のレッスン受講状況により、平常点で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 受講登録時に配布する注意事項をよく読む。</p> <p>【教科書】 グループにより適宜選択する。</p> <p>【参考書等】 指導教員の指示により適宜選択する。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------------|------|--------------|-----------|-------|--------------------------|----------|----------|-------|------|----------|-------------|-------|----------|---------------------------|------|-------|-------------------------|-----------|-------------|--|
| 教科 No. | 71013 | 授業科目 | 合奏演習（管弦楽）Ⅰ～Ⅳ | 単位数 | 各1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 増井信貴，秋山和慶（非常勤），上中朝美（非常勤） | | | 開講学期 | 前期・後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 弦・管・打楽器による組織的で大規模な合奏を通じて、オーケストラにおける音の響きや音色の多彩な変化、またはプレス、ボーイング、リズムの作り方や音楽の表現法、演奏効果などを学ぶことを目標とする。</p> <p>【授業概要】 管弦楽作品数曲を授業課題とし、合奏または弦楽器と管・打楽器によるパート合奏を行う。また授業に必要な楽譜の製作やセッティング、リセッティングなどを学生自ら行うことにより、プロのオーケストラの自覚と責任を持つことを学ぶ。→備考に続く。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション 1年間の授業の説明など</td> <td>9. 課題の合奏</td> </tr> <tr> <td>2. 課題の合奏</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. 特別練習</td> </tr> <tr> <td>4. 課題のパート合奏</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. 課題の合奏</td> <td>13. (合唱合せ又はコンチェルト，ソロ合せなど)</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. コンチェルトの合奏 (又は合唱合せなど)</td> <td>15. 演奏会本番</td> </tr> <tr> <td>8. 課題のパート合奏</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点として評価するが、授業への取り組み態度などは大変重要な要素である。</p> <p>【履修上の注意】 欠席は認めない。やむを得ない理由の時も「欠席・早退・遅刻届」を必ず事前に提出のこと。</p> <p>【教科書】 各セクションの係が製作する。</p> <p>【参考書等】 授業課題のスコア・CDなど</p> <p>※備考 ◎オリエンテーション 4月 11日 (月) 16時 20分～ ※全員必ず出席のこと。以降の授業の予定については別途日程表を配布する。</p> <p>この授業は学部「オーケストラ」との合同授業であるが、大学院オペラ公演のオーケストラについては「合奏演習（オペラ）」を別途登録・履修すること。</p> | | | | | | 1. オリエンテーション 1年間の授業の説明など | 9. 課題の合奏 | 2. 課題の合奏 | 10. " | 3. " | 11. 特別練習 | 4. 課題のパート合奏 | 12. " | 5. 課題の合奏 | 13. (合唱合せ又はコンチェルト，ソロ合せなど) | 6. " | 14. " | 7. コンチェルトの合奏 (又は合唱合せなど) | 15. 演奏会本番 | 8. 課題のパート合奏 | |
| 1. オリエンテーション 1年間の授業の説明など | 9. 課題の合奏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 課題の合奏 | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. 特別練習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 課題のパート合奏 | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 課題の合奏 | 13. (合唱合せ又はコンチェルト，ソロ合せなど) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. コンチェルトの合奏 (又は合唱合せなど) | 15. 演奏会本番 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 課題のパート合奏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--|-----------------|------|----------|------------|-------|
| 教科 No. | 71014 | 授業科目 | 声楽実習 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 声楽専攻専任教員及び非常勤講師 | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 声楽専攻 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 声楽実技担当教員による個人レッスン形式の指導により、修士課程における研究課題に沿って演奏楽曲の理解と習得を深め、演奏技術及び表現法の向上を目指す。</p> <p>【授業概要】 履修者の課題とする内容に合わせて、声楽実技担当教員から声楽技術、言語表現、音楽表現等に対する指導を受ける。年度末に実技試験を課す。修了までに修士演奏Ⅰおよび修士論文、修士演奏Ⅰおよび修士演奏Ⅱ、修士演奏Ⅰおよび修士演奏Ⅲ・修士レポート提出のいずれかを行うこと。</p> <p>【評価方法】 前期は平常点により評価を行う。後期は修士演奏Ⅰ及びⅡ、Ⅲにより評価する。</p> <p>【履修上の注意】 修士課程における研究として取り組むこと。</p> <p>【教科書】 担当教員の指示により適宜選択する。</p> <p>【参考書等】 担当教員の指示により適宜選択する。</p> <p>※備考 芸術性と人間性は非常に深く関わっているので、音楽関連以外の教科（美学・哲学など）も積極的に履修することを推奨する。</p> <p>○教員からのメッセージ</p> <p>折江 忠道 歌に欠かせないもの・・・体力、気力、完成、大いに切磋琢磨して下さい。</p> <p>小濱 妙美 音楽に国境なし、豊かな精神力と健全な体力を養いピュアなハートで美しい歌を歌い世界に羽ばたきましょう。</p> <p>北村 敏則 個性と基本を軸に声楽的表現の技術と感情のバランスを共同調整作業していきたいと思います。</p> <p>日紫喜恵美 歌うことは、究極のアナログであることを誇りに、体も心も知識も、共に磨いていきましょう。</p> <p>上野 洋子 癖のない発声、流れる呼吸、ピュアな心、前向きな気持ちで『発展する声楽』を目指しましょう。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------|------|----------|-------------|-------|--------------|-----------------|-----------------------------|------------------|-----------------------------|------------------|-----------------------------|------------------|-----------------------------|-----------------|--------------------------------|-----------------|--------------------------------|-----------|--------------------------------|--|
| 教科 No. | 71015 | 授業科目 | 声乐演習 1～4 | 単位数 | 各1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 波多野 均 (非常勤) | | | 開講学期 | 前期・後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 声乐専攻 1・2 回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 宗教的声楽曲の主要作品を歴史的に取り上げ研修し、その概要を把握する。特に 18 世紀、ドイツを中心に発展した教会音楽の理解を深め、その演奏法を研究する。</p> <p>【授業概要】 前期では、1 回生は F. ヘンデル『メサイア』と W.A. モーツァルト、2 回生は J.S. バッハと J. ハイドン、後期ではロマン派以降の作品を取り上げ、楽曲の理解を深めるとともに演奏法を研究する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. ロマン派以降の作品研修①</td> </tr> <tr> <td>2. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修①</td> <td>10. ロマン派以降の作品研修②</td> </tr> <tr> <td>3. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修②</td> <td>11. ロマン派以降の作品研修③</td> </tr> <tr> <td>4. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修③</td> <td>12. ロマン派以降の作品研修④</td> </tr> <tr> <td>5. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修④</td> <td>13. 公開発表会の為の演習①</td> </tr> <tr> <td>6. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修①</td> <td>14. 公開発表会の為の演習②</td> </tr> <tr> <td>7. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修②</td> <td>15. 公開発表会</td> </tr> <tr> <td>8. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修③</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常の授業態度、及び年度末に行う公開演奏会によって評価する。</p> <p>【履修上の注意】 各人の能力や個性を考慮して計画的な学習を心がける。また、重唱曲への積極的な取り組みや協調性が求められる。</p> <p>【教科書】 各自が適宜選択する。</p> <p>【参考書等】 各自が適宜選択する。</p> | | | | | | 1. オリエンテーション | 9. ロマン派以降の作品研修① | 2. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修① | 10. ロマン派以降の作品研修② | 3. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修② | 11. ロマン派以降の作品研修③ | 4. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修③ | 12. ロマン派以降の作品研修④ | 5. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修④ | 13. 公開発表会の為の演習① | 6. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修① | 14. 公開発表会の為の演習② | 7. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修② | 15. 公開発表会 | 8. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修③ | |
| 1. オリエンテーション | 9. ロマン派以降の作品研修① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修① | 10. ロマン派以降の作品研修② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修② | 11. ロマン派以降の作品研修③ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修③ | 12. ロマン派以降の作品研修④ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. J.S. バッハ / F. ヘンデルの作品研修④ | 13. 公開発表会の為の演習① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修① | 14. 公開発表会の為の演習② | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修② | 15. 公開発表会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. J. ハイドン / W.A. モーツァルトの作品研修③ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------|------------|-------------|-----|---------------------|---------|----------------------------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|--|
| 教科 No. | 71016 | 授業科目 | オペラ演習 I・II | 単位数 | 4単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 折江忠道、小濱妙美、松本重孝 (非常勤)、奥村哲也 (後期、非常勤)、松本薫平 (非常勤)、水谷影子 (非常勤)、松園洋二 (後期、非常勤)、松木賢三 (後期、非常勤) | | | 開講学期 | 全期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 声乐専攻 1・2 回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 オペラにおける総合舞台表現 (音楽表現、身体表現) の実践。</p> <p>【授業概要】 オペラ作品を使い、オペラ歌手として必要不可欠な実践舞台を基本から関わり、着手し、より高度な総合舞台表現方法を習得する。研究した成果をオペラ公演として披露する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オペラ・アリアの披露、ガイダンス</td> <td>9. 立ち稽古</td> </tr> <tr> <td>2. 音楽稽古 (オペラ作品におけるレチタティーボ、独唱、重唱)</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 総合的判断で評価する。</p> <p>【履修上の注意】 歌手としての自覚と責任をもって授業に臨む事。</p> <p>【教科書】 必要なオペラヴォーカルスコアを追って指示する。</p> <p>【参考書等】 適宜指示する</p> | | | | | | 1. オペラ・アリアの披露、ガイダンス | 9. 立ち稽古 | 2. 音楽稽古 (オペラ作品におけるレチタティーボ、独唱、重唱) | 10. " | 3. " | 11. " | 4. " | 12. " | 5. " | 13. " | 6. " | 14. " | 7. " | 15. " | 8. " | |
| 1. オペラ・アリアの披露、ガイダンス | 9. 立ち稽古 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 音楽稽古 (オペラ作品におけるレチタティーボ、独唱、重唱) | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|------|------------|-----------|-----|---------------------------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-----------|------|---------------|------|--------------|------|--|
| 教科 No. | 71017 | 授業科目 | 歌曲演習（仏）Ⅰ・Ⅲ | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 福田清美（非常勤） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 声楽専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 フランス歌曲のエスプリを求めて！</p> <p>【授業概要】 仏語に作曲された有名曲を選曲し、仏語・音楽・学生の技術を考え合わせ演奏法を探る。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国際発音記号の習得（リエゾンの禁止等の理解）</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. 演奏発表会</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. 演奏発表会での反省</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 次回の準備をする</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演奏発表（希望により演奏会）</p> <p>【履修上の注意】 国際発音記号と日本語の違いを確認，発音記号付きの辞書必須</p> <p>【教科書】 仏語による自由曲を学生が選択する。</p> <p>【参考書等】 （図書館に無い場合コピーを用意する。）</p> | | | | | | 1. 国際発音記号の習得（リエゾンの禁止等の理解） | 9. " | 2. " | 10. " | 3. " | 11. " | 4. " | 12. " | 5. " | 13. 演奏発表会 | 6. " | 14. 演奏発表会での反省 | 7. " | 15. 次回の準備をする | 8. " | |
| 1. 国際発音記号の習得（リエゾンの禁止等の理解） | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. " | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. 演奏発表会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. 演奏発表会での反省 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. 次回の準備をする | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------|------|------------|-----------|-----|-------------------------------------|------|------|-------|------|-------|------|-----------|------|---------------|------|-------|------|-------------------|------|--|
| 教科 No. | 71018 | 授業科目 | 歌曲演習（仏）Ⅱ・Ⅳ | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 福田清美（非常勤） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 声楽専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 フランス歌曲のエスプリを求めて！</p> <p>【授業概要】 仏語に作曲された有名曲を選曲し、仏語（リズムグループ、強調、イントネーション）・音楽・学生の技術を考え合わせ演奏法を探る。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国際発音記号の暗記 リズムグループ・強調・イントネーションの習得</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. 演奏発表会</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. 演奏発表会での反省</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 独立したときの準備をする。</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演奏発表（希望により演奏会）</p> <p>【履修上の注意】 国際発音記号の習得（リズムグループ、強調、イントネーション），発音記号付きの辞書必須</p> <p>【教科書】 仏語による自由曲を学生が選択する。</p> <p>【参考書等】 （図書館に無い場合コピーを用意する。）</p> | | | | | | 1. 国際発音記号の暗記 リズムグループ・強調・イントネーションの習得 | 9. " | 2. " | 10. " | 3. " | 11. " | 4. " | 12. 演奏発表会 | 5. " | 13. 演奏発表会での反省 | 6. " | 14. " | 7. " | 15. 独立したときの準備をする。 | 8. " | |
| 1. 国際発音記号の暗記 リズムグループ・強調・イントネーションの習得 | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. " | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. 演奏発表会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. 演奏発表会での反省 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. 独立したときの準備をする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------|------|------------|-----------|-------|----------------------|----------|-----------------|-----------|-----------|-------------------|------------|-------------------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|---------|--|
| 教科 No. | 71019 | 授業科目 | 歌曲演習（独）Ⅰ～Ⅳ | 単位数 | 各1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 小濱妙美（音楽棟308） | | | 開講学期 | 前期・後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 声楽専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 ドイツリート演奏法の修得。ドイツリートの世界に触れる中で、詩と音楽の密接な相互関係を理解し、表現力向上に努める。</p> <p>【授業概要】 ヨーロッパの歴史的背景と時代の流れ（古典派～ロマン派～近代・現代に至る）に沿い、リート界の主なる作曲家を認識し、作品に触れる。ドイツ語の繊細で美しいディクションを大切にしながら奥深い詩の内容を的確につかみ楽曲分析していく勉強の課程に伴い、歌手とピアニストがパートナーとなり共感 & 共演する素晴らしさを体験させる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ドイツリートについての説明及び発音</td> <td>9. ヴォルフⅠ</td> </tr> <tr> <td>2. ハイドン、ベートーヴェン</td> <td>10. ヴォルフⅡ</td> </tr> <tr> <td>3. モーツァルト</td> <td>11. リヒャルト・シュトラウスⅠ</td> </tr> <tr> <td>4. シューベルトⅠ</td> <td>12. リヒャルト・シュトラウスⅡ</td> </tr> <tr> <td>5. シューベルトⅡ</td> <td>13. 演奏発表Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>6. シューマンⅠ</td> <td>14. 演奏発表Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>7. シューマンⅡ</td> <td>15. 総評</td> </tr> <tr> <td>8. プラムス</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演奏発表</p> <p>【履修上の注意】 辞書必須</p> <p>【教科書】 適宜指示</p> <p>【参考書等】 適宜指示</p> | | | | | | 1. ドイツリートについての説明及び発音 | 9. ヴォルフⅠ | 2. ハイドン、ベートーヴェン | 10. ヴォルフⅡ | 3. モーツァルト | 11. リヒャルト・シュトラウスⅠ | 4. シューベルトⅠ | 12. リヒャルト・シュトラウスⅡ | 5. シューベルトⅡ | 13. 演奏発表Ⅰ | 6. シューマンⅠ | 14. 演奏発表Ⅱ | 7. シューマンⅡ | 15. 総評 | 8. プラムス | |
| 1. ドイツリートについての説明及び発音 | 9. ヴォルフⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ハイドン、ベートーヴェン | 10. ヴォルフⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. モーツァルト | 11. リヒャルト・シュトラウスⅠ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. シューベルトⅠ | 12. リヒャルト・シュトラウスⅡ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. シューベルトⅡ | 13. 演奏発表Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. シューマンⅠ | 14. 演奏発表Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. シューマンⅡ | 15. 総評 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. プラムス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|---------------|------|-------------|------------|-------|
| 教科 No. | 81001 | 授業科目 | 音楽学研究 a 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 龍村あや子（音楽研究室2） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 音楽学専攻1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 修士論文に関する個別的研究指導により、論文の基礎固めをする。</p> <p>【授業概要】 音楽学専攻学生の修士論文に関する専門的な個人指導を行う。授業の方法についてはガイダンスで支持する。</p> <p>【評価方法】 研究態度・成果を総合的に見て評価する。</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 授業で適宜指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|--------------|------|-------------|------------|-------|
| 教科 No. | 81002 | 授業科目 | 音楽学研究 b 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 山田陽一（音楽研究室3） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 音楽学専攻1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 修士論文作成のための実践的指導をおこなう。</p> <p>【授業概要】 民族音楽学・音響人類学・ポピュラー音楽論に関する修士論文作成を目的として、各自の研究テーマに基づきながら、専門的な個別指導をおこなう。授業は基本的に受講生の研究発表を中心とするが、具体的な進め方については相談のうえ決定する。</p> <p>【評価方法】 授業における研究発表の内容と出席状況による。</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 授業で適宜指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|----------------|------|-------------|--------------|-------|
| 教科 No. | 81003 | 授業科目 | 音楽学研究 c 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 津崎 実 (音楽研究室 4) | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 音楽学専攻 1・2 回生 | |
| <p>【授業目標】 音楽心理学に関する実験研究を進めるに当たって必要な文献的知識の獲得について、学術論文誌情報の集め方、読解の仕方、批判の仕方について技能向上を目指します。</p> <p>【授業概要】 各自の研究テーマに関連するか、もしくは研究テーマの選択に参考となるような文献を見つけ、それについてまとめて報告する。報告者以外は報告者に対して質問をしたり、報告内容について批判的な視点からコメントをしていくことを通して、相互の論理的な思考力の向上を目指す。</p> <p>【評価方法】 出席と各場面での発言や、資料の下調べの精度など総合的に判断します</p> <p>【履修上の注意】 自らの考えを論ずる姿勢を常に持ち続けるように努めて下さい。</p> <p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書等】 選択したテーマに応じて適当なものがあれば授業の際に教示します</p> <p>※備考 毎回、各受講者が選択してきた文献についてレジメを作成し、アウトラインを発表します。担当者以外の受講者は担当者の発表内容に対しての質問やコメントをすることを求められます。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|----------------|------|-------------|--------------|-------|
| 教科 No. | 81004 | 授業科目 | 音楽学研究 d 1～4 | 単位数 | 各3単位 |
| 担当教員 | 柿沼敏江 (音楽研究室 1) | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 音楽学専攻 1・2 回生 | |
| <p>【授業目標】 音楽学の専門的な研究に必要な知識と方法論を習得し、修士論文の作成を行なう。</p> <p>【授業概要】 音楽学専攻の修士論文作成のための専門的な指導を行う。英語の専門書を講読しながら、ディスカッションを行なう。また随時、研究発表を行なう。論文指導はゼミとは別に個別に行なうので、事前にアポイントメントをとること。</p> <p>【評価方法】 出席・期末レポート</p> <p>【履修上の注意】 欠席しないこと。</p> <p>【教科書】 とくに定めない。</p> <p>【参考書等】 その都度指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|------|-----------|-----------------|------|-----|-----------------------|----------------|------------------------|------------------|---------------------|----------------------|---------------|--------------------|-------------|--------------------|-------------------|-----------------|-------------------------|--------|--------------------|--|
| 教科 No. | 81005 | 授業科目 | 作曲理論研究Ⅰ・Ⅲ | | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 中村典子（音楽棟213） | | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 作曲専攻を除く全専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 音楽作品の本質的把握の為に分析的研究を行う。研究する楽曲の構造、様式について深く考察し、可能な限り純粋な音楽現象として捉え、また、その後世界をも探究する。</p> <p>【授業概要】 研究対象として、今回は新ウィーン楽派の音楽を中心に同時の音楽を重点的に取り上げ、精密な分析を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点</td> <td>9. 分析表作成のための検討</td> </tr> <tr> <td>2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望</td> <td>10. 楽曲の細部と全体の関連性</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲分析の様々な方法について検討</td> <td>11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理</td> </tr> <tr> <td>4. 分析的着眼点について</td> <td>12. 楽曲の論理的帰結としての終止</td> </tr> <tr> <td>5. 楽曲構造について</td> <td>13. 全曲を通しての構成原理の確認</td> </tr> <tr> <td>6. 様々な音楽様式についての考察</td> <td>14. 楽曲分析を終えての総括</td> </tr> <tr> <td>7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. 類似する各部分相互の対照と対応</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席、授業への主体的参加などをかんがみ、総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>【履修上の注意】 基本的には全出席を期待する。</p> <p>【教科書】 A.WEBERN: VARIATION (UNIVERSAL), A.SCHOENBERG: PHANTASY (UNIVERSAL) など</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜紹介する。</p> <p>※備考 「和声法上級」・「対位法」・「管弦楽法」など音楽的能力に関する基礎的技術が身につけていることを受講の前提とする。</p> | | | | | | | 1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点 | 9. 分析表作成のための検討 | 2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望 | 10. 楽曲の細部と全体の関連性 | 3. 楽曲分析の様々な方法について検討 | 11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理 | 4. 分析的着眼点について | 12. 楽曲の論理的帰結としての終止 | 5. 楽曲構造について | 13. 全曲を通しての構成原理の確認 | 6. 様々な音楽様式についての考察 | 14. 楽曲分析を終えての総括 | 7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠 | 15. 予備 | 8. 類似する各部分相互の対照と対応 | |
| 1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点 | 9. 分析表作成のための検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望 | 10. 楽曲の細部と全体の関連性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 楽曲分析の様々な方法について検討 | 11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分析的着眼点について | 12. 楽曲の論理的帰結としての終止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 楽曲構造について | 13. 全曲を通しての構成原理の確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 様々な音楽様式についての考察 | 14. 楽曲分析を終えての総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠 | 15. 予備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 類似する各部分相互の対照と対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------|------|-----------|-----------------|------|-----|-----------------------|----------------|------------------------|------------------|---------------------|----------------------|---------------|--------------------|-------------|--------------------|-------------------|-----------------|-------------------------|--------|--------------------|--|
| 教科 No. | 81006 | 授業科目 | 作曲理論研究Ⅱ・Ⅳ | | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 中村典子（音楽棟213） | | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 作曲専攻を除く全専攻1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 音楽作品の本質的把握の為に分析的研究を行う。研究する楽曲の構造、様式について深く考察し、可能な限り純粋な音楽現象として捉え、また、その後世界をも探究する。</p> <p>【授業概要】 研究対象として、今回は松村禎三「ブネウマ」「チェロ協奏曲」をはじめ20・21世紀日本の作曲家の作品を中心に重点的に取り上げ、精密な分析を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点</td> <td>9. 分析表作成のための検討</td> </tr> <tr> <td>2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望</td> <td>10. 楽曲の細部と全体の関連性</td> </tr> <tr> <td>3. 楽曲分析の様々な方法について検討</td> <td>11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理</td> </tr> <tr> <td>4. 分析的着眼点について</td> <td>12. 楽曲の論理的帰結としての終止</td> </tr> <tr> <td>5. 楽曲構造について</td> <td>13. 全曲を通しての構成原理の確認</td> </tr> <tr> <td>6. 様々な音楽様式についての考察</td> <td>14. 楽曲分析を終えての総括</td> </tr> <tr> <td>7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. 類似する各部分相互の対照と対応</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席、授業への主体的参加などをかんがみ、総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>【履修上の注意】 基本的には全出席を期待する。</p> <p>【教科書】 松村禎三「ブネウマ」「チェロ協奏曲」（全音）</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜紹介する。</p> <p>※備考 「和声法上級」・「対位法」・「管弦楽法」など音楽的能力に関する基礎的技術が身につけていることを受講の前提とする。</p> | | | | | | | 1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点 | 9. 分析表作成のための検討 | 2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望 | 10. 楽曲の細部と全体の関連性 | 3. 楽曲分析の様々な方法について検討 | 11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理 | 4. 分析的着眼点について | 12. 楽曲の論理的帰結としての終止 | 5. 楽曲構造について | 13. 全曲を通しての構成原理の確認 | 6. 様々な音楽様式についての考察 | 14. 楽曲分析を終えての総括 | 7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠 | 15. 予備 | 8. 類似する各部分相互の対照と対応 | |
| 1. 音楽作品を研究するにあたっての留意点 | 9. 分析表作成のための検討 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 楽曲分析を始めるにあたっての全曲の展望 | 10. 楽曲の細部と全体の関連性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 楽曲分析の様々な方法について検討 | 11. 楽曲の時間的進行をつかさどる原理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 分析的着眼点について | 12. 楽曲の論理的帰結としての終止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 楽曲構造について | 13. 全曲を通しての構成原理の確認 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 様々な音楽様式についての考察 | 14. 楽曲分析を終えての総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 楽曲分析における楽曲区分の判定とその根拠 | 15. 予備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 類似する各部分相互の対照と対応 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|---------------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81011 | 授業科目 | 音楽学演習 a 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 龍村あや子（音楽研究室2） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 修士課程での研究について基礎を固める。</p> <p>【授業概要】 参加者一人一人が興味をもっているテーマについて発表を行わせ、それについて参加者全員で討論、検討を重ねる中から、修士論文もしくはレポートの研究テーマを固めていけるように指導する。詳細についてはメンバーが確定してから指示する。適宜、博士課程の発表をまじえる。</p> <p>【評価方法】 授業における研究発表の内容と出席状況による。</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 授業で適宜指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81012 | 授業科目 | 音楽学演習 b 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 山田陽一（音楽研究室3） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 民族音楽学・音響人類学・ポピュラー音楽論の基本的な考えかたと、論文・レポートのまとめかたを習得する。</p> <p>【授業概要】 修士論文あるいは修士レポートの作成に向けて、文献・音響映像資料の収集方法やフィールドワークの方法、論文・レポートのまとめかたなどを中心に、ゼミ形式で指導をおこなう。ワールドミュージックやアフリカン・アメリカン音楽（ジャズ・ゴスペル・ブルースなど）を含む、世界諸民族の音楽やポピュラー音楽を対象とする。</p> <p>【評価方法】 出席状況による。</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 授業で適宜指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81013 | 授業科目 | 音楽学演習 c 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 津崎 実（音楽研究室4） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 音楽心理学に関する実験研究を進めるに当たって必要な知識・技術の習得とその実践を総合的に行います。単に音楽心理学に留まらず、自然科学的な方法論に対する習熟を目指します。</p> <p>【授業概要】 音楽心理学領域のテーマで修士論文を作成することを最終目標として、特に聴取実験を実施して科学技術論文として仕上げるまでの過程で必要な知識、技能についての演習を行う。個々の修士論文に関する経過報告を他の履修生も交えながらしてもらい、お互いに批評、助言し合うことを通じて質の向上を目指していく。</p> <p>【評価方法】 報告書（論文）、平常点、出席状況によって総合的に評価します。</p> <p>【履修上の注意】 実験的な研究をする場合、実験機材や実験室の制約も考慮しないと行けなくなります。他の学年や教官スタッフの間で融通し合う必要があります。その制約を考えて計画が自己中心的にならないように心がけて下さい。</p> <p>【教科書】 特に指定はありません。</p> <p>【参考書等】 授業の際に必要なに応じて紹介します。</p> <p>※備考 c 1では修士論文計画の立案、c 2では予備実験の実施と報告書作成、c 3では本実験の実施と修士論文の初稿の作成、c 4では補足実験の実施と修士論文の仕上げをそれぞれゴールとします。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|--------------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81014 | 授業科目 | 音楽学演習 d 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 柿沼敏江（音楽研究室1） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 修士論文、修士レポートの作成のために必要な知識と研究方法を身につけ、論文、レポートの作成を行なう。</p> <p>【授業概要】 前期には、文献検索の方法をマスターし、各自のテーマについて、文献表（各文献に関して要約をつける）を作成する。また随時研究発表を行ない、ディスカッションをする。後期は、各自のテーマについて、さらに絞り込み、論文、レポートのための研究を行なう。</p> <p>【評価方法】 出席、期末レポート、修士論文、修士レポート</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 授業で適宜指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|-----------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81015 | 授業科目 | 音楽学演習 f 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 三島 郁（非常勤） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 各自が自分のテーマに沿って研究を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>【授業概要】 毎回担当者が各々の論文のテーマにしたがって計画的に発表を行い、意見の交換や討論を行う。各自が授業内容を自分の研究に反映させ、総合的な考察を加え、修士論文の作成を行う。またよりよい論文を作成するために、資料収集の方法や書式などについて適宜指導を行う。</p> <p>【評価方法】 平常点、学期末のレポートと修士論文による評価。</p> <p>【履修上の注意】 各自が独自の研究の積み重ねに努力すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 各自が必要に応じて用意する。</p> <p>※備考 授業計画：研究計画 研究内容の発表 討論 文献探索 学期末レポートの計画</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|------------|------|-------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81016 | 授業科目 | 音楽学演習 i 1～4 | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 落合理恵子（非常勤） | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | — | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 修士論文を書くために、文献の探し方、思考法、文章の書き方など、基礎的なことを身につけていきます。</p> <p>【授業概要】 まずは「論文とはなにか」を理解します。次に文献の探し方を学びながら、各々論文のテーマを決めます。テーマが決定したら、文献表の作成法、論理的な思考法、文章の書き方などを学んでいきます。また随時研究発表を行い、ディスカッションをしながら各自の研究を深めていきます。</p> <p>【評価方法】 平常点および学期末のレポートと修士論文の完成度。</p> <p>【履修上の注意】 自発性がもっとも必要となります。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業で適宜紹介します。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|------------------------|------|----------------|--------|-----|
| 教科 No. | 81017 | 授業科目 | 音楽学演習 e 1 : 能楽 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 金剛永謹 (非常勤, 金剛流 26 世宗家) | | | 開講学期 | 前期 |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2 回生 | |
| <p>【授業目標】 謡曲の初習者のための実習</p> <p>【授業概要】 能楽は、六百年の歴史を有する世界最古の音楽劇である。その音楽的要素は、謡いと呼ばれる声楽部と、能管（笛・小太鼓・太鼓）の囃子からなる。本実習では、謡いの発声等の実技、並びに音楽的構成を学び、能の総理解を深めることを目的とする。※不定期授業（前期初めに日程配布）</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 能楽の概説 2. 謡いの概説, 謡曲「猩々」の練習 3. 謡曲「猩々」の練習（強吟, 弱吟習得のため） 4. // 5. // 6. 能面の解説 7. 実技試験 <p>【評価方法】 修得度の試験（実技）</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 謡本</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 学部「日本音楽史Ⅰ・Ⅱ」と平行して履修すれば、より効果的である。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|---|------------------------|------|----------------|--------|-----|
| 教科 No. | 81018 | 授業科目 | 音楽学演習 e 2 : 能楽 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 金剛永謹 (非常勤, 金剛流 26 世宗家) | | | 開講学期 | 後期 |
| 履修条件 | 先修科目：音楽学演習 e 1 | | 履修学年・専攻等 | 1・2 回生 | |
| <p>【授業目標】 謡曲の初習者のための実習</p> <p>【授業概要】 e 1 に引き続き、能楽の謡曲を学ぶ。謡曲「羽衣」の練習（弱吟習得）を通して、能の音楽的構成を学ぶと共に、能の総理解を深める。 ※不定期授業…日程については、後期の受講登録時に周知する。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 謡いの概説, 謡曲「羽衣」の練習 2. 謡曲「羽衣」の練習 3. // 4. // 5. // 6. // 7. 実技試験 <p>【評価方法】 修得度の試験（実技）</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 謡本</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 「日本音楽史Ⅰ・Ⅱ」と平行して履修すれば、より効果的である。</p> | | | | | |

| | | | | | |
|--|------------|------|--------------------|--------------------------|---------|
| 教科 No. | 81019 | 授業科目 | 音楽学演習 g 1 : 打楽器演奏法 | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | 竹原美歌 (非常勤) | | | 開講学期 | 集中 (前期) |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 作曲専攻, 指揮専攻, 器楽専攻 (打楽器のみ) | |
| <p>【授業目標】 現代打楽器音楽の演奏法を習得するとともに、現代打楽器音楽についての知識を深める。</p> <p>【授業概要】 現代打楽器音楽演奏の実技レッスンとレクチャー。</p> <p>【評価方法】 演奏またはレポート</p> <p>【履修上の注意】 レッスン曲目について事前に十分な調査と練習を経て受講すること</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 なし</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|------|----------------------|-----------------|-----|--------------|------|----------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|---------------|------|---------|------|--|
| 教科 No. | 81020 | 授業科目 | 音楽学演習 h 1 : 弦楽四重奏 中級 | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 弦楽専攻教員 | | | 開講学期 | 全期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 器楽専攻 (弦楽) 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 弦楽四重奏の演奏法の基礎を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 初級を終えたグループがさらにベートーヴェン中期・後期やロマン派や近現代の作品の理解と習得</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. グループごとのレッスン</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. 発表会のリハーサル</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 発表会</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 平常点及び発表による評価</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加する。</p> <p>【教科書】 授業で適宜指示する。</p> <p>【参考書等】 なし</p> <p>※備考 室内楽</p> | | | | | | 1. オリエンテーション | 9. " | 2. グループごとのレッスン | 10. " | 3. " | 11. " | 4. " | 12. " | 5. " | 13. " | 6. " | 14. 発表会のリハーサル | 7. " | 15. 発表会 | 8. " | |
| 1. オリエンテーション | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. グループごとのレッスン | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. 発表会のリハーサル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. 発表会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|------|-------------------------------------|--------|------|--|-------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|---|---------------------------|---------------------|---------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------------|------------------|----------------------------|--|
| 教科 No. | 81021 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 a I・Ⅲ：19 世紀の音楽と音楽思想—交響曲を中心に | 単位数 | 2 単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 龍村あや子（音楽研究室 2） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2 回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 19 世紀ロマン主義の時代・社会における音楽のあり方と思想，特に交響曲の表現と形式の理解を深める。</p> <p>【授業概要】 19 世紀ロマン主義において音楽はどのように捉えられ，発展したか。交響曲の理念・内容・形式とその変遷を追いながら考える。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。</td> <td>9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。</td> </tr> <tr> <td>2. ロマン主義思想の始まり—文学上の初期ロマン派とその音楽思想</td> <td>10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。</td> </tr> <tr> <td>3. シューベルトの短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか</td> <td>11. チャイコフスキーの交響曲第 6 番の中心はどこにあるのか。</td> </tr> <tr> <td>4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。</td> <td>12. 19 世紀交響曲における「メロディーの力」</td> </tr> <tr> <td>5. ベルリオーズの《幻想》とその影響</td> <td>13. 19 世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって</td> <td>14. マラーの交響曲—ロマン主義最後の表現</td> </tr> <tr> <td>7. 交響曲における民族主義—北欧，東欧の諸作品</td> <td>15. マラーの交響曲第 9 番</td> </tr> <tr> <td>8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末に提出するレポートと，普段の履修態度，出席を考慮して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 出席を重視する。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 授業中に紹介する。</p> <p>※備考 いわゆる「名曲解説講座」ではなく，専門的な知識を深めるための授業である。</p> | | | | | | 1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。 | 9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。 | 2. ロマン主義思想の始まり—文学上の初期ロマン派とその音楽思想 | 10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。 | 3. シューベルトの短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか | 11. チャイコフスキーの交響曲第 6 番の中心はどこにあるのか。 | 4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。 | 12. 19 世紀交響曲における「メロディーの力」 | 5. ベルリオーズの《幻想》とその影響 | 13. 19 世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」 | 6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって | 14. マラーの交響曲—ロマン主義最後の表現 | 7. 交響曲における民族主義—北欧，東欧の諸作品 | 15. マラーの交響曲第 9 番 | 8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響 | |
| 1. 古典派とロマン派はひとつの大きな時代である。では何が歴史的に変化したのか。 | 9. サンサーンスはなぜ交響曲にオルガンを取り入れたのか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ロマン主義思想の始まり—文学上の初期ロマン派とその音楽思想 | 10. プラームスはなぜロマン派の中の古典主義といわれるのか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. シューベルトの短調交響曲第一楽章は何を表現しようとしているのか | 11. チャイコフスキーの交響曲第 6 番の中心はどこにあるのか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. シューベルト，シューマン，メンデルスゾーンは交響曲をどのように捉えたか。 | 12. 19 世紀交響曲における「メロディーの力」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. ベルリオーズの《幻想》とその影響 | 13. 19 世紀交響曲の楽章構成と「スケルツォ」 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. ロマン主義思想の歴史の変遷をめぐって | 14. マラーの交響曲—ロマン主義最後の表現 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 交響曲における民族主義—北欧，東欧の諸作品 | 15. マラーの交響曲第 9 番 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. ワグナーのバイロイト楽劇の全ヨーロッパへの影響 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|------|---------------------------------------|--------|------|---|-----------------|-------------------------------------|------------------|-------------------------|------------------|----------------------------|------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------|------------------------------|----------------------|------------------|----------------------|--|
| 教科 No. | 81022 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 a II・IV：地球文明時代の音楽—ヨーロッパとイスラーム | 単位数 | 2 単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 龍村あや子（音楽研究室 2） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2 回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 世界がひとつの運命共同体として生きるべき時代に必要な音楽学的思考を学ぶ。</p> <p>【授業概要】 ヨーロッパ，アメリカの文化とイスラーム文化を音楽・芸術を通して学ぶ</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。</td> <td>9. スペインの歴史と音楽 1</td> </tr> <tr> <td>2. 9.11 以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。</td> <td>10. スペインの歴史と音楽 2</td> </tr> <tr> <td>3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について</td> <td>11. アフリカの文化と音楽 1</td> </tr> <tr> <td>4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 1</td> <td>12. アフリカの文化と音楽 2</td> </tr> <tr> <td>5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 2</td> <td>13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 1</td> </tr> <tr> <td>6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり</td> <td>14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 2</td> </tr> <tr> <td>7. イスラーム文化圏の音楽の多様性 1</td> <td>15. 人間にとって芸術とは何か</td> </tr> <tr> <td>8. イスラーム文化圏の音楽の多様性 2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回書いてもらう小レポート（感想・意見・質問など）と，期末レポート，出席及び授業態度の総合評価による。</p> <p>【履修上の注意】 出席を重視する。</p> <p>【教科書】 特に指定しないが，下記に挙げた参考文献を読んでおくことが望ましい。」</p> <p>【参考書等】 龍村あや子著：「地球文明時代の芸術—音楽と＜自然＞と信仰の問題を考える」『地球時代の文明学』京都通信社所収「21 世紀の音楽と文明を考える」『比較文明』（比較文明学会機関誌）第 21 号所収。「パン・アフリカン・ミュージックと現代の音楽文化」『諸民族の音楽を学ぶ人のために』世界思想社所収</p> | | | | | | 1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。 | 9. スペインの歴史と音楽 1 | 2. 9.11 以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。 | 10. スペインの歴史と音楽 2 | 3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について | 11. アフリカの文化と音楽 1 | 4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 1 | 12. アフリカの文化と音楽 2 | 5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 2 | 13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 1 | 6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり | 14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 2 | 7. イスラーム文化圏の音楽の多様性 1 | 15. 人間にとって芸術とは何か | 8. イスラーム文化圏の音楽の多様性 2 | |
| 1. 地球は一つの星であり，自然環境を共有し，社会的にも全世界は共同体であることの認識を得る。 | 9. スペインの歴史と音楽 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 9.11 以降の対立の構図をどう考えるか。音楽には何が出来るか。 | 10. スペインの歴史と音楽 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 人間の自然観，信仰と音楽の多様性について | 11. アフリカの文化と音楽 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 1 | 12. アフリカの文化と音楽 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. ヨーロッパ文明とイスラーム文明の歴史的考察 2 | 13. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 現代におけるイスラーム文化圏の広がり | 14. パン・アフリカンミュージックと現代の音楽文化 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. イスラーム文化圏の音楽の多様性 1 | 15. 人間にとって芸術とは何か | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. イスラーム文化圏の音楽の多様性 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|------|-------------------------------------|-------|-----|-------------|------|---------------------------|-------|---------------------|----------------------|--|-------|---------------|-------|------|------------------|----------------------------|---------------------|---------------------|--|
| 教科 No. | 81023 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 b I・Ⅲ：ロマニ（ジプシー）音楽の魅力さをぐる（1） | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山田陽一（音楽研究室3） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | ★備考必読 | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 ヨーロッパにおけるロマニ（ロマ／ジプシー）音楽文化のありかたを探る。</p> <p>【授業概要】 ロマニの移動の歴史やロマニ音楽の成立過程を概観したうえで、トルコ半島、バルカン半島、東ヨーロッパのロマニ音楽の事例をとりあげ、映像資料を多用しながら、その政治的・社会的・文化的背景や音楽的特質について論じる。また、ロマニ音楽とワールド・ミュージックとの関係についても言及する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ロマニとは誰か？</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ</td> <td>11. タラフ・ドウ・ハイドウクスの音楽</td> </tr> <tr> <td>4. "Gypsy Music into Europe"（ドキュメンタリー映画）</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. ロマニ音楽の成立過程</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. ロビー・ラカトシュの音楽</td> </tr> <tr> <td>7. 『ラッチョ・ドローム』（ドキュメンタリー映画）</td> <td>15. エスマ／ヴァイエラ・ピラの音楽</td> </tr> <tr> <td>8. ファンファーレ・チオカリアの音楽</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況とレポートによる。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する。</p> <p>※備考 ★学部で「民族音楽学Ⅰ」を履修した学生は再履修できない。</p> | | | | | | 1. ロマニとは誰か？ | 9. " | 2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ | 10. " | 3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ | 11. タラフ・ドウ・ハイドウクスの音楽 | 4. "Gypsy Music into Europe"（ドキュメンタリー映画） | 12. " | 5. ロマニ音楽の成立過程 | 13. " | 6. " | 14. ロビー・ラカトシュの音楽 | 7. 『ラッチョ・ドローム』（ドキュメンタリー映画） | 15. エスマ／ヴァイエラ・ピラの音楽 | 8. ファンファーレ・チオカリアの音楽 | |
| 1. ロマニとは誰か？ | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ロマニの移動の歴史～北インドからトルコ半島へ | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " ～トルコ半島からヨーロッパへ | 11. タラフ・ドウ・ハイドウクスの音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. "Gypsy Music into Europe"（ドキュメンタリー映画） | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. ロマニ音楽の成立過程 | 13. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. ロビー・ラカトシュの音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 『ラッチョ・ドローム』（ドキュメンタリー映画） | 15. エスマ／ヴァイエラ・ピラの音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. ファンファーレ・チオカリアの音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------------|------|--------------------------------------|-------|-----|---------------------|------------------|-------------------|------------------|------|----------------|------|---------------|---------------------------|-------------------------------|------------------|------------------------------|---------------------|--------|-----------------|--|
| 教科 No. | 81024 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 b II・Ⅳ：ロマニ（ジプシー）音楽の魅力さをぐる（2） | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山田陽一（音楽研究室3） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | ★備考必読 | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 ヨーロッパにおけるロマニ（ロマ／ジプシー）音楽文化のありかたを探る。</p> <p>【授業概要】 西ヨーロッパのロマニ音楽の事例をとりあげ、映像資料を多用しながら、その音楽的・文化的特徴について論じるとともに、ロマニ音楽とワールド・ミュージックとの関係についても言及する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. スウィング・マヌーシュの成立過程</td> <td>9. 『僕のスウィング』（映画）</td> </tr> <tr> <td>2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽</td> <td>10. ジプシー・キングスの音楽</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. フラメンコの成立過程</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. 『ベンゴ』（映画）</td> </tr> <tr> <td>5. スウィング・マヌーシュ（ビレリ・ラグレーン）</td> <td>13. 『パッション・フラメンカ』（TVドキュメンタリー）</td> </tr> <tr> <td>6. "（チャボロ・シュミット）</td> <td>14. 『ジプシー・キャラバン』（ドキュメンタリー映画）</td> </tr> <tr> <td>7. "（ストーケロ・ローゼンバーグ）</td> <td>15. 総括</td> </tr> <tr> <td>8. "（アンジェロ・デバレ）</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況とレポートによる。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加すること。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する。</p> <p>※備考 ★学部で「民族音楽学Ⅱ」を履修した学生は再履修できない。</p> | | | | | | 1. スウィング・マヌーシュの成立過程 | 9. 『僕のスウィング』（映画） | 2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽 | 10. ジプシー・キングスの音楽 | 3. " | 11. フラメンコの成立過程 | 4. " | 12. 『ベンゴ』（映画） | 5. スウィング・マヌーシュ（ビレリ・ラグレーン） | 13. 『パッション・フラメンカ』（TVドキュメンタリー） | 6. "（チャボロ・シュミット） | 14. 『ジプシー・キャラバン』（ドキュメンタリー映画） | 7. "（ストーケロ・ローゼンバーグ） | 15. 総括 | 8. "（アンジェロ・デバレ） | |
| 1. スウィング・マヌーシュの成立過程 | 9. 『僕のスウィング』（映画） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. ジャンゴ・ラインハルトの音楽 | 10. ジプシー・キングスの音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. フラメンコの成立過程 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. 『ベンゴ』（映画） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. スウィング・マヌーシュ（ビレリ・ラグレーン） | 13. 『パッション・フラメンカ』（TVドキュメンタリー） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. "（チャボロ・シュミット） | 14. 『ジプシー・キャラバン』（ドキュメンタリー映画） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. "（ストーケロ・ローゼンバーグ） | 15. 総括 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. "（アンジェロ・デバレ） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------|-----------------------|------|--------|------------|----------------|-----------------|-------------------|----------------|-------------------|--------------|------------------|--------------|------------|-----------|--------------------|--------------|-------------|-------|--|
| 教科 No. | 81025 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 c I・III：音の生態学 | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 津崎 実（音楽研究室 1） | | | 開講学期 | 集中（前期） | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | 京都駅前キャンパスプラザで受講 ★備考必読 | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 音は音楽のためだけにあるものではありません。それを理解することを通して、これまで当然のことのように享受していた音の素晴らしさに気が付いてほしいと思います。</p> <p>【授業概要】 多くの音楽にとって音の存在は前提となっています。これは音楽が音を素材として生まれた、つまり音の存在の方が音楽よりも原始的な段階から備わっていたことを意味します。この原始的な意味での音、つまり我々の生態系の中における音の役割について解説していきます。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 音の伝えるもの</td> <td>9. 共振と素材、形状、寸法</td> </tr> <tr> <td>2. 視覚情報と聴覚情報の違い</td> <td>10. インパルス応答と周期的駆動</td> </tr> <tr> <td>3. オブジェクトとイベント</td> <td>11. 周期性の正規化とピッチ知覚</td> </tr> <tr> <td>4. 聴覚は振動検知から</td> <td>12. ピッチの違いと音源の違い</td> </tr> <tr> <td>5. ものの振動の仕組み</td> <td>13. 音環境の特質</td> </tr> <tr> <td>6. 聴覚器の構成</td> <td>14. 音の根源から見たときの音楽論</td> </tr> <tr> <td>7. 周波数とものの性質</td> <td>15. 異空間での音楽</td> </tr> <tr> <td>8. 共振</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 最終日に実施する試験（出席点はありません）</p> <p>【履修上の注意】 音楽以外の領域における音の役割を見ることがまず重点となります。</p> <p>【教科書】 特になし</p> <p>【参考書等】 乾編，認知心理学 1 「知覚と運動」，（1995）東大出版会</p> <p>※備考 ★2009 年度プラザ科目として出講した音楽学特講 c，音楽学特殊研究 c を履修したものは重複になるので履修不可。</p> | | | | | | 1. 音の伝えるもの | 9. 共振と素材、形状、寸法 | 2. 視覚情報と聴覚情報の違い | 10. インパルス応答と周期的駆動 | 3. オブジェクトとイベント | 11. 周期性の正規化とピッチ知覚 | 4. 聴覚は振動検知から | 12. ピッチの違いと音源の違い | 5. ものの振動の仕組み | 13. 音環境の特質 | 6. 聴覚器の構成 | 14. 音の根源から見たときの音楽論 | 7. 周波数とものの性質 | 15. 異空間での音楽 | 8. 共振 | |
| 1. 音の伝えるもの | 9. 共振と素材、形状、寸法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 視覚情報と聴覚情報の違い | 10. インパルス応答と周期的駆動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. オブジェクトとイベント | 11. 周期性の正規化とピッチ知覚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 聴覚は振動検知から | 12. ピッチの違いと音源の違い | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. ものの振動の仕組み | 13. 音環境の特質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 聴覚器の構成 | 14. 音の根源から見たときの音楽論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 周波数とものの性質 | 15. 異空間での音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 共振 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|----------------|-------|----------|-----------------|------|---------|
| 教科 No. | 81026 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 c II・IV | 単位数 | 2単位 |
| 担当教員 | (休講) | | | 開講学期 | 前期または後期 |
| 履修条件 | なし | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | |
| <h1>今年度休講</h1> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|------|----------------|-------|-----|-------------|--------------------|-------------------------|--------------------------|----------------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-------------|------------------------|--------------------------|--------------------|--|
| 教科 No. | 81027 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 e I・II | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 三島 郁 (非常勤) | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 西洋芸術音楽において演奏は「歴史的」である。現在の演奏スタイルも現在趣味と判断によるものであることを認識し、創造的な演奏がいかにあるべきかを考える。</p> <p>【授業概要】 本講義では、複数の記譜方法をもつ楽譜の記譜法、理論書・実践書の歴史的史料などにおける演奏に関する記述、録音の比較等から、演奏スタイルの変化や記譜法と演奏の関係を分析、考察する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 演奏における歴史</td> <td>9. 複数「版」の記譜と演奏 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品</td> <td>10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興</td> </tr> <tr> <td>3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品</td> <td>11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習</td> </tr> <tr> <td>4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品</td> <td>12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為</td> </tr> <tr> <td>5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント</td> <td>13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜</td> </tr> <tr> <td>6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート</td> <td>14. 「歴史的」演奏</td> </tr> <tr> <td>7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈</td> <td>15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏</td> </tr> <tr> <td>8. 複数「版」の記譜と演奏 (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 学期末のレポート, 平常点, 出席点</p> <p>【履修上の注意】</p> <p>【教科書】 授業内で資料を配布</p> <p>【参考書等】 授業内で紹介</p> | | | | | | 1. 演奏における歴史 | 9. 複数「版」の記譜と演奏 (2) | 2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品 | 10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興 | 3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品 | 11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習 | 4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品 | 12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為 | 5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント | 13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜 | 6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート | 14. 「歴史的」演奏 | 7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈 | 15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏 | 8. 複数「版」の記譜と演奏 (1) | |
| 1. 演奏における歴史 | 9. 複数「版」の記譜と演奏 (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 演奏スタイルの変化 (1): バッハ作品 | 10. 記譜方法と演奏 (1): 記譜された即興 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 演奏スタイルの変化 (2): モーツァルト作品 | 11. 記譜方法と演奏 (2): 奏者が加える演奏慣習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 演奏スタイルの変化 (3): 19 世紀の作品 | 12. 記譜方法と演奏 (3): 通奏低音の実践と作曲行為 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 19 世紀の奏法 (1): ヴィブラートとポルタメント | 13. 記譜方法と演奏 (4): 「手で」知覚する楽譜 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 19 世紀の奏法 (2): テンポ設定とルバート | 14. 「歴史的」演奏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 19 世紀の奏法 (3): 音価の解釈 | 15. 「オーセンティック」な演奏と創造的な演奏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 複数「版」の記譜と演奏 (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|------|-----------------------------------|-------|-----|----------------------------|---------------------------------------|---------------------|---------------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------------------------|-----------------------|----------------------|---|---------|--|--|
| 教科 No. | 81028 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 g I・Ⅲ：ミサ曲テキストに見るプロテスタント思想 | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 毅（音楽棟207） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | ★備考必読 | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 ミサ曲のテキストの意味内容を理解し、背景にある神学とそれを演奏するプロテスタントキリスト教徒の宗教的感情を知る。</p> <p>【授業概要】 ミサ曲の歌詞の意味を辞書で調べることは簡単です。しかし、その背景にある思想や感情を知ることなくそのことばを理解したとはいえません。聖書的・神学的背景を知らなくてはなりません。演奏法も当然そこに土台があります。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説</td> <td>9. Quoniam tu solus sanctus (汝の望みなれば)</td> </tr> <tr> <td>2. Kyrie (主よ憐れみたまえ)</td> <td>10. Cum Sancto Spiritu (聖霊とともに)</td> </tr> <tr> <td>3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax (いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ)</td> <td>11. Credo in unum Deum (われは信ず、唯一なる神を)</td> </tr> <tr> <td>4. Laudamus te (われら汝を讃え)</td> <td>12. Sanctus (聖なるかな)</td> </tr> <tr> <td>5. Gratias agimus tibi (感謝し奉る)</td> <td>13. Osanna in excelsis (いと高きところにオザンナ)</td> </tr> <tr> <td>6. Domine Deus (主なる神)</td> <td>14. Agnus Dei (神の子羊)</td> </tr> <tr> <td>7. Qui tollis peccata mundi (世の罪を除きたもう者よ)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Qui sedes ad dextram Patris (父の右に座したもう者よ)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回の授業での小テストによる平常点、出席点による</p> <p>【履修上の注意】 毎授業時楽譜を持参することが望ましい。</p> <p>【教科書】 授業で配布</p> <p>【参考書等】 バハ・ロ短調ミサの楽譜（スコア・ヴォーカルスコアどちらでも可。ペーレンライター版が望ましい。）</p> <p>※備考 後期開講科目「マタイ受難曲テキストに見るプロテスタント思想」はこの授業の続編となります。</p> <p>★音楽学特殊研究 g I を履修済みの者は、g Ⅲの履修は不可。</p> | | | | | | 1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説 | 9. Quoniam tu solus sanctus (汝の望みなれば) | 2. Kyrie (主よ憐れみたまえ) | 10. Cum Sancto Spiritu (聖霊とともに) | 3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax (いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ) | 11. Credo in unum Deum (われは信ず、唯一なる神を) | 4. Laudamus te (われら汝を讃え) | 12. Sanctus (聖なるかな) | 5. Gratias agimus tibi (感謝し奉る) | 13. Osanna in excelsis (いと高きところにオザンナ) | 6. Domine Deus (主なる神) | 14. Agnus Dei (神の子羊) | 7. Qui tollis peccata mundi (世の罪を除きたもう者よ) | 15. まとめ | 8. Qui sedes ad dextram Patris (父の右に座したもう者よ) | |
| 1. キリスト教とプロテスタント教会音楽、ミサ曲概説 | 9. Quoniam tu solus sanctus (汝の望みなれば) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. Kyrie (主よ憐れみたまえ) | 10. Cum Sancto Spiritu (聖霊とともに) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. Gloria in excelsis Deo Et in terra pax (いと高きところにいます神に栄光あれ地には平和あれ) | 11. Credo in unum Deum (われは信ず、唯一なる神を) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Laudamus te (われら汝を讃え) | 12. Sanctus (聖なるかな) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. Gratias agimus tibi (感謝し奉る) | 13. Osanna in excelsis (いと高きところにオザンナ) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. Domine Deus (主なる神) | 14. Agnus Dei (神の子羊) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. Qui tollis peccata mundi (世の罪を除きたもう者よ) | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. Qui sedes ad dextram Patris (父の右に座したもう者よ) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|---------------------------------------|-------|-----|-------------------------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|---------|-------------|---------|-------------|------------|--------|------------|---------|-------------|--|
| 教科 No. | 81029 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 g II・Ⅳ：ヨハネ受難曲テキストに見るプロテスタント思想 | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山本 毅（音楽棟207） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 ヨハネ受難曲のテキストの意味内容を理解し、背景にある神学とそれを演奏するキリスト教徒の内心にある宗教的感情を知る。</p> <p>【授業概要】 ヨハネ受難曲のテキストはキリスト教神学の中心的なテーマである十字架の死を扱っている。テキストの背景にある神学、思想、そこから導き出される宗教的感情を学び、それが音楽でどう表現されているかを研究する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説</td> <td>9. 判決と十字架 2</td> </tr> <tr> <td>2. 裏切りと捕縛 1</td> <td>10. 判決と十字架 3</td> </tr> <tr> <td>3. 裏切りと捕縛 2</td> <td>11. イエスの死 1</td> </tr> <tr> <td>4. 否認 1</td> <td>12. イエスの死 2</td> </tr> <tr> <td>5. 否認 2</td> <td>13. イエスの死 3</td> </tr> <tr> <td>6. 審問と鞭打 1</td> <td>14. 埋葬</td> </tr> <tr> <td>7. 審問と鞭打 2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 判決と十字架 1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 毎回の授業での小テストによる平常点、出席点による</p> <p>【履修上の注意】 毎授業時楽譜を持参することが望ましい。</p> <p>【教科書】 授業で配布</p> <p>【参考書等】 バハ・ヨハネ受難曲の楽譜（スコア・ヴォーカルスコアどちらでも可 ペーレンライター版が望ましい）</p> <p>前期開講科目「音楽学特殊研究 g II・Ⅳ：ミサ曲テキストに見るプロテスタント思想」の続編となる。</p> | | | | | | 1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説 | 9. 判決と十字架 2 | 2. 裏切りと捕縛 1 | 10. 判決と十字架 3 | 3. 裏切りと捕縛 2 | 11. イエスの死 1 | 4. 否認 1 | 12. イエスの死 2 | 5. 否認 2 | 13. イエスの死 3 | 6. 審問と鞭打 1 | 14. 埋葬 | 7. 審問と鞭打 2 | 15. まとめ | 8. 判決と十字架 1 | |
| 1. 導入 キリスト教とプロテスタント教会音楽、受難曲概説 | 9. 判決と十字架 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 裏切りと捕縛 1 | 10. 判決と十字架 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 裏切りと捕縛 2 | 11. イエスの死 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 否認 1 | 12. イエスの死 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 否認 2 | 13. イエスの死 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 審問と鞭打 1 | 14. 埋葬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 審問と鞭打 2 | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 判決と十字架 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|------|-----------------|-------|-----|-------------------|--------------|------------------------------|---------------|-----------------------------|------------------------|------------------------|----------------|---------------|----------------|---------------|------------------------|-----------------------|---------|--------------|--|
| 教科 No. | 81030 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 h I・III | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 山田智恵子（日本伝統音楽研究センター） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 義太夫節の音楽としてのしぐみを理解する一文楽をより深く鑑賞するために</p> <p>【授業概要】 人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近な音楽であった。この講義では、音楽としての義太夫節にスポットをあて、全員でテキストを音読した後、実際の演奏を聴く。一つ一つの言葉がいかにか巧みに音の世界で表現されているかを理解し、文楽を耳からも楽しめるようになることを目指す。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業ガイダンス・文楽とは何か</td> <td>9. 「鮎屋の段」その3</td> </tr> <tr> <td>2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その1 地合とは何か</td> <td>10. 「鮎屋の段」その4</td> </tr> <tr> <td>3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その2 一曲の構成</td> <td>11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その1</td> </tr> <tr> <td>4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その1</td> <td>12. 「道行初音旅」その2</td> </tr> <tr> <td>5. 「渡海屋の段」その2</td> <td>13. 「道行初音旅」その3</td> </tr> <tr> <td>6. 「渡海屋の段」その3</td> <td>14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ</td> </tr> <tr> <td>7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 「鮎屋の段」その2</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 レポート</p> <p>【履修上の注意】 出席重視</p> <p>【教科書】 なし（配布資料）</p> <p>【参考書等】 授業中に関連参考書を指示</p> | | | | | | 1. 授業ガイダンス・文楽とは何か | 9. 「鮎屋の段」その3 | 2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その1 地合とは何か | 10. 「鮎屋の段」その4 | 3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その2 一曲の構成 | 11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その1 | 4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その1 | 12. 「道行初音旅」その2 | 5. 「渡海屋の段」その2 | 13. 「道行初音旅」その3 | 6. 「渡海屋の段」その3 | 14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ | 7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その1 | 15. まとめ | 8. 「鮎屋の段」その2 | |
| 1. 授業ガイダンス・文楽とは何か | 9. 「鮎屋の段」その3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その1 地合とは何か | 10. 「鮎屋の段」その4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 義太夫節の音楽としてのしぐみ その2 一曲の構成 | 11. 義経千本桜四段目「道行初音旅」その1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 義経千本桜二段目切「渡海屋の段」その1 | 12. 「道行初音旅」その2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 「渡海屋の段」その2 | 13. 「道行初音旅」その3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 「渡海屋の段」その3 | 14. 人形浄瑠璃文楽として目と耳から楽しむ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 義経千本桜三段目切「鮎屋の段」その1 | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 「鮎屋の段」その2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|------|-----------------|-------|-----|-----------------------|------------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|--------------------|----------------------|------------------|-------------------------|-----------------|---------------------|--|
| 教科 No. | 81031 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 i I・III | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 藤田隆則（日本伝統音楽研究センター） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 諸民族の音楽にふれて、文化の多様性をみる観点をいくつか獲得する</p> <p>【授業概要】 「民族音楽」という種類の「音楽」があるのではない。「民族音楽学」という「ものの見方」「考え方」が存在するだけなのだ。このことを理解してもらうために、この授業では、アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパの諸民族の伝統音楽をとりあげ、その音楽テキストに実際に接しながら、様々な課題（まねすることも含む）に取り組むことにしたい。音や音楽の周辺的なことがらに目をむけたり、音を発するプロセスに目をむけることによって、音楽についての見方を拡大することが、授業の目的である。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける</td> <td>9. 民族音楽学の視点－比較対照</td> </tr> <tr> <td>2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける</td> <td>10. 民族音楽学の視点－民族と民俗</td> </tr> <tr> <td>3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける</td> <td>11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史</td> </tr> <tr> <td>4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける</td> <td>12. 民族音楽学の視点－詩学と美学</td> </tr> <tr> <td>5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける</td> <td>13. 民族音楽学の視点－記述と説明</td> </tr> <tr> <td>6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける</td> <td>14. 民族音楽学の視点－まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト</td> <td>15. 民族音楽学の視点－予備</td> </tr> <tr> <td>8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席 2 割，レポート 8 割</p> <p>【履修上の注意】 実際に手をうごかしたり，声をだしてみたりすることがあります。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】</p> | | | | | | 1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける | 9. 民族音楽学の視点－比較対照 | 2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける | 10. 民族音楽学の視点－民族と民俗 | 3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける | 11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史 | 4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける | 12. 民族音楽学の視点－詩学と美学 | 5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける | 13. 民族音楽学の視点－記述と説明 | 6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける | 14. 民族音楽学の視点－まとめ | 7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト | 15. 民族音楽学の視点－予備 | 8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ | |
| 1. 民族音楽学の視点－異文化に目をむける | 9. 民族音楽学の視点－比較対照 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 民族音楽学の視点－自然に目をむける | 10. 民族音楽学の視点－民族と民俗 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 民族音楽学の視点－社会に目をむける | 11. 民族音楽学の視点－哲学と歴史 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 民族音楽学の視点－言語に目をむける | 12. 民族音楽学の視点－詩学と美学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 民族音楽学の視点－思想に目をむける | 13. 民族音楽学の視点－記述と説明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 民族音楽学の視点－経済に目をむける | 14. 民族音楽学の視点－まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 民族音楽学の視点－テキストとコンテキスト | 15. 民族音楽学の視点－予備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 民族音楽学の視点－観察から記録へ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------|------|-----------------|-------|-----|--------------|--------------|------------------|---------------|------------------|----------------|-------------------|-----------------|-------------------|--------------------|------------------|--------------------|------------------|-----------|-----------------|--|
| 教科 No. | 81032 | 授業科目 | 音楽学特殊研究 i II・IV | 単位数 | 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 田井竜一（日本伝統音楽研究センター） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 授業概要参照</p> <p>【授業概要】 〔諸民族の音楽芸能〕 人類がはぐくんできた、多様で豊かな音楽芸能が、自然・文化・社会的脈絡の中で、どのように存在し、いかなる意味をもっているのかを明らかにする。それにより、人間にとって音楽芸能とは何なのかについて考察をおこなう。同時に、音楽芸能の動態的側面にも、注目する様にしたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. 西アジアの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>2. 東アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>10. アフリカの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>3. 東アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>11. ヨーロッパの音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>4. 東南アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>12. アメリカ大陸の音楽芸能</td> </tr> <tr> <td>5. 東南アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>13. オセアニアの音楽芸能 (1)</td> </tr> <tr> <td>6. 南アジアの音楽芸能 (1)</td> <td>14. オセアニアの音楽芸能 (2)</td> </tr> <tr> <td>7. 南アジアの音楽芸能 (2)</td> <td>15. 伝統と現代</td> </tr> <tr> <td>8. 中央・北アジアの音楽芸能</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 試験（論述式）と、最低 1 回の提出を義務づけるイベント参加レポートを総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 受講生には、講義を単に受動的にうけるのではなく、積極的に諸民族の音楽芸能にふれる機会をつくっていくことをのぞみたい。</p> <p>【教科書】 柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽―諸民族の伝統音楽からポップスまで』音楽之友社 2，200 円。</p> <p>【参考書等】 講義時に適宜紹介する。</p> <p>視聴覚資料（ビデオディスク・ビデオテープ・CD・オーディオテープ等）を駆使し、常に具体的な事例にもとづきながら講義をすすめる。</p> | | | | | | 1. イントロダクション | 9. 西アジアの音楽芸能 | 2. 東アジアの音楽芸能 (1) | 10. アフリカの音楽芸能 | 3. 東アジアの音楽芸能 (2) | 11. ヨーロッパの音楽芸能 | 4. 東南アジアの音楽芸能 (1) | 12. アメリカ大陸の音楽芸能 | 5. 東南アジアの音楽芸能 (2) | 13. オセアニアの音楽芸能 (1) | 6. 南アジアの音楽芸能 (1) | 14. オセアニアの音楽芸能 (2) | 7. 南アジアの音楽芸能 (2) | 15. 伝統と現代 | 8. 中央・北アジアの音楽芸能 | |
| 1. イントロダクション | 9. 西アジアの音楽芸能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 東アジアの音楽芸能 (1) | 10. アフリカの音楽芸能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 東アジアの音楽芸能 (2) | 11. ヨーロッパの音楽芸能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 東南アジアの音楽芸能 (1) | 12. アメリカ大陸の音楽芸能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 東南アジアの音楽芸能 (2) | 13. オセアニアの音楽芸能 (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 南アジアの音楽芸能 (1) | 14. オセアニアの音楽芸能 (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 南アジアの音楽芸能 (2) | 15. 伝統と現代 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 中央・北アジアの音楽芸能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|--|----------------|------|-----------------|-------|-------|
| 教科 No. | 81041 | 授業科目 | 原典研究 (英 a) I～IV | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 山田陽一 (音楽研究室 3) | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 音楽に関する英語文献の読解能力を高める。</p> <p>【授業概要】 Nicholas Cook, Music: A Very Short Introduction (1998) を通読する。</p> <p>【評価方法】 出席状況と平常点による。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に授業に参加すること。</p> <p>【教科書】 授業開始時に資料を配布する。</p> <p>【参考書等】 授業中に指示する。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------|------------------|-------|-----|-----------------|---------------------------------------|---|----------------------|---|--|--|------------------|--|----------------------------|--|----------------------------|--|---------|---------------------------------------|--|
| 教科 No. | 81042 | 授業科目 | 原典研究 (英 b) I・III | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 真鍋晶子 (非常勤) | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 音楽に関する英語で書かれた文献を読み、英語でのやり取りを聞き取り、また自分の考えや感じたことを英語で表現する能力を養う。様々な場での「定型」を知ると同時に自己表現することを身につける。</p> <p>【授業概要】 英語で書かれた西洋音楽関係の文献を精読する。優れた演奏家によるマスタークラスの動画を検討することで、聞き取りの能力を養う。また、様々な状況・条件での英文の書き方を学ぶ。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Writing(W): 履歴書・プロフィールの書き方 (1), Listening(L): マスタークラスを見る (1)</td> <td>10. W : 自己推薦書を書く (1)</td> </tr> <tr> <td>3. W: 履歴書・プロフィールの書き方 (2), L: マスタークラスを見る (2)</td> <td>11. W : 自己推薦書を書く (2), Presentation(P): 面接の練習</td> </tr> <tr> <td>4. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1)</td> <td>12. P: 自己アピールをする</td> </tr> <tr> <td>5. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2)</td> <td>13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1)</td> </tr> <tr> <td>6. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (1),L: マスタークラスを見る (3)</td> <td>14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2)</td> </tr> <tr> <td>7. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (4)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への参加状況、および提出された課題を総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 授業への積極的な参加を求める。</p> <p>【教科書】 プリント等を配布する。</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜指示する。</p> | | | | | | 1. Introduction | 9. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (2) | 2. Writing(W): 履歴書・プロフィールの書き方 (1), Listening(L): マスタークラスを見る (1) | 10. W : 自己推薦書を書く (1) | 3. W: 履歴書・プロフィールの書き方 (2), L: マスタークラスを見る (2) | 11. W : 自己推薦書を書く (2), Presentation(P): 面接の練習 | 4. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1) | 12. P: 自己アピールをする | 5. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2) | 13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1) | 6. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (1),L: マスタークラスを見る (3) | 14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2) | 7. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (4) | 15. まとめ | 8. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (1) | |
| 1. Introduction | 9. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. Writing(W): 履歴書・プロフィールの書き方 (1), Listening(L): マスタークラスを見る (1) | 10. W : 自己推薦書を書く (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. W: 履歴書・プロフィールの書き方 (2), L: マスタークラスを見る (2) | 11. W : 自己推薦書を書く (2), Presentation(P): 面接の練習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1) | 12. P: 自己アピールをする | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. Reading (R) : 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2) | 13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (1),L: マスタークラスを見る (3) | 14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. W: e-mail の書き方。手紙の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (4) | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. Reading (R) : 音楽理論や形式に関する文献を読む (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------|------------------|-------|-----|-----------------|------------------------------|---|---------------------------|---|---|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|--|---|--|-----------------------|---------|-----------------------------|--|
| 教科 No. | 81043 | 授業科目 | 原典研究 (英 b) II・IV | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 真鍋晶子 (非常勤) | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 音楽に関する英語で書かれた文献を読み、英語でのやり取りを聞き取り、また自分の考えや感じたことを英語で表現する能力を養う。様々な場での「定型」を知ると同時に自己表現することを身につける。</p> <p>【授業概要】 英語で書かれた西洋音楽関係の文献を精読する。優れた演奏家によるマスタークラスの動画を検討することで、聞き取りの能力を養う。また、様々な状況・条件での英文の書き方を学ぶ。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. R : 音楽の理論や形式に関する文献を読む (2)</td> </tr> <tr> <td>2. Writing(W): Academic Writing の書き方 (1),Listening(L): マスタークラスを見る (1)</td> <td>10. W: 自分自身の専門について考える (2)</td> </tr> <tr> <td>3. W: Academic Writing の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (2)</td> <td>11. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (3),W: 英文要旨の書き方,</td> </tr> <tr> <td>4. Reading: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1)</td> <td>12. Presentation: 自分自身の専門について考える (3)</td> </tr> <tr> <td>5. R: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2)</td> <td>13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1),L: マスタークラスを見る (4)</td> </tr> <tr> <td>6. W: Academic Writing の書き方 (3),L: マスタークラスを見る (3)</td> <td>14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2),L: マスタークラスを見る (5)</td> </tr> <tr> <td>7. 自分自身の専門について考える (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への参加状況、および提出された課題を総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 授業への積極的な参加を求める。</p> <p>【教科書】 プリント等を配布する。</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜指示する。</p> | | | | | | 1. Introduction | 9. R : 音楽の理論や形式に関する文献を読む (2) | 2. Writing(W): Academic Writing の書き方 (1),Listening(L): マスタークラスを見る (1) | 10. W: 自分自身の専門について考える (2) | 3. W: Academic Writing の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (2) | 11. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (3),W: 英文要旨の書き方, | 4. Reading: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1) | 12. Presentation: 自分自身の専門について考える (3) | 5. R: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2) | 13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1),L: マスタークラスを見る (4) | 6. W: Academic Writing の書き方 (3),L: マスタークラスを見る (3) | 14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2),L: マスタークラスを見る (5) | 7. 自分自身の専門について考える (1) | 15. まとめ | 8. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (1) | |
| 1. Introduction | 9. R : 音楽の理論や形式に関する文献を読む (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. Writing(W): Academic Writing の書き方 (1),Listening(L): マスタークラスを見る (1) | 10. W: 自分自身の専門について考える (2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. W: Academic Writing の書き方 (2),L: マスタークラスを見る (2) | 11. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (3),W: 英文要旨の書き方, | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Reading: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (1) | 12. Presentation: 自分自身の専門について考える (3) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. R: 楽譜・CD・DVD の注釈、解説を読む (2) | 13. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (1),L: マスタークラスを見る (4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. W: Academic Writing の書き方 (3),L: マスタークラスを見る (3) | 14. R: 作曲家や専門に関する文献を読む (2),L: マスタークラスを見る (5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 自分自身の専門について考える (1) | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. R: 音楽の理論や形式に関する文献を読む (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|------|-----------|-------|-----|----------------------|-------------------------------------|------------|-------|--------------|----------|------|-----------------|------|-----------------------|----------------------------|--------|------|--------|------|--|
| 教科 No. | 81044 | 授業科目 | 原典研究（英c）I | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 北村千絵（非常勤） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 今までに取得した内容の定着と発展。クラス内では常に英語で意見を出し合い、一方通行ではない会話表現を身につける。</p> <p>【授業概要】 音楽に関する様々な著書、映画、番組等から英語表現を学ぶ。各々の受講者の必要になるべく答えたいので、目的を持って参加していただき、話し合いながら進めていきたい。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス。各々の目標、希望の確認</td> <td>9. コンサートのプログラミング等をグループで話し合いながら作り上げる</td> </tr> <tr> <td>2. 音楽用語の復習</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. 記事、小説等を読む</td> <td>11. 楽曲解説</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. コンサートや演奏の感想</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. 英語8で音楽自分史を書くための準備</td> </tr> <tr> <td>6. 番組、映画、映像資料等の内容の把握、感想の交換</td> <td>14. 予備</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 予備</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への連続した参加が最重要。出席、参加度40%、発表、課題（テスト、提出物等）60%</p> <p>【履修上の注意】 2/3以上の出席厳守。無断欠席不可。</p> <p>【教科書】 特になし。資料を配布。</p> <p>【参考書等】 英英辞書の活用を強く希望します。</p> | | | | | | 1. ガイダンス。各々の目標、希望の確認 | 9. コンサートのプログラミング等をグループで話し合いながら作り上げる | 2. 音楽用語の復習 | 10. " | 3. 記事、小説等を読む | 11. 楽曲解説 | 4. " | 12. コンサートや演奏の感想 | 5. " | 13. 英語8で音楽自分史を書くための準備 | 6. 番組、映画、映像資料等の内容の把握、感想の交換 | 14. 予備 | 7. " | 15. 予備 | 8. " | |
| 1. ガイダンス。各々の目標、希望の確認 | 9. コンサートのプログラミング等をグループで話し合いながら作り上げる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 音楽用語の復習 | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 記事、小説等を読む | 11. 楽曲解説 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. コンサートや演奏の感想 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. 英語8で音楽自分史を書くための準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 番組、映画、映像資料等の内容の把握、感想の交換 | 14. 予備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. 予備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------|------|------------|-------|-----|----------|------|---------------------|-------|------------------------|--------------------|----------------------------------|---------------------|------|------------------------------|---------------------------------|-------|------|-------|----------------------|--|
| 教科 No. | 81045 | 授業科目 | 原典研究（英c）II | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 北村千絵（非常勤） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 個人の興味や必要に応じた語彙の増強。日本音楽（文化）の紹介。</p> <p>【授業概要】 A4レポート用紙2枚程度の音楽自分史を英語で書く。Biographyや演奏、学習曲目リストの作成。これらと平行して学校案内や、募集要項などの読み方、書き方等。また、英語7の内容を踏まえ、更に多くの事を自分の言葉として発せるよう目、口、耳で英語に接する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. Short Biography.</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. List of Repertoire.</td> <td>11. Presentation I</td> </tr> <tr> <td>4. Prospectus & Application Form</td> <td>12. Presentation II</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "Music and I" Discussion</td> </tr> <tr> <td>6. Japanese Culture & Customn I</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. Japanese Music II</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への連続した参加が最重要。出席、参加度40%、発表、課題（テスト、提出物等）60%</p> <p>【履修上の注意】 2/3以上の出席厳守。無断欠席不可。</p> <p>【教科書】 資料を適宜配布。</p> <p>【参考書等】 なし</p> | | | | | | 1. ガイダンス | 9. " | 2. Short Biography. | 10. " | 3. List of Repertoire. | 11. Presentation I | 4. Prospectus & Application Form | 12. Presentation II | 5. " | 13. "Music and I" Discussion | 6. Japanese Culture & Customn I | 14. " | 7. " | 15. " | 8. Japanese Music II | |
| 1. ガイダンス | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. Short Biography. | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. List of Repertoire. | 11. Presentation I | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Prospectus & Application Form | 12. Presentation II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. "Music and I" Discussion | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. Japanese Culture & Customn I | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. Japanese Music II | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------|------|---------------|-------|-------|----------|------|------------------------------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|---------|------|--|
| 教科 No. | 81046 | 授業科目 | 原典研究 (仏) I～IV | 単位数 | 各1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 北村直子 (非常勤) | | | 開講学期 | 前期・後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 フランス語文献を精読することにより、フランス語読解力を養う。また、音読・フランス語作文を適宜行うことにより、フランス語による意思疎通能力の涵養も目標とする。</p> <p>【授業概要】 フランス語による楽曲紹介および楽曲分析を精読する。関連する音楽批評のテキストも取り上げる。必要に応じてフランス語文法の復習を行う。テキストは初回ガイダンスにて受講者の希望を聞き決定する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. フランス語文献の精読 (受講生の理解度・希望に応じて進める。)</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. "</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業時の応答、小テスト、期末テスト・レポートなどで総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的な参加を期待する。</p> <p>【教科書】 プリントでテキストを配布する。</p> <p>【参考書等】 プリントでテキストを配布する。</p> | | | | | | 1. ガイダンス | 9. " | 2. フランス語文献の精読 (受講生の理解度・希望に応じて進める。) | 10. " | 3. " | 11. " | 4. " | 12. " | 5. " | 13. " | 6. " | 14. " | 7. " | 15. まとめ | 8. " | |
| 1. ガイダンス | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. フランス語文献の精読 (受講生の理解度・希望に応じて進める。) | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. " | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|---|------------|------|-----------------------|-------------|-------|
| 教科 No. | 81047 | 授業科目 | 原典研究 (独 a) I～IV：正確に読む | 単位数 | 各1単位 |
| 担当教員 | 池田晋也 (非常勤) | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 音楽学専攻 1・2回生 | |
| <p>【授業目標】 1. 音楽に関するドイツ語文献の精読を通して、文法を復習する。2. ドイツ語の構文に慣れ、文脈を追って読む力を養う。3. 論文及び和訳の技術を身につける。4. 専門的な語彙力を高めるとともに、音楽に対する見識を深める。</p> <p>【授業概要】 以下にテキストの候補を挙げておく。 Werner Faulstich(Hg.): Die Kultur der 20er Jahre. München 2008 Wolfram Knauer(Hg.): Jazz und Gesellschaft. Sozialgeschichtliche Aspekte des Jazz. Darmstadt 2002 Giserher Schubert(Hg.): Französische und deutsche Musik im 20. Jahrhundert. Mainz 2001</p> <p>【評価方法】 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p>【履修上の注意】 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p>【教科書】 テキストは授業時にプリントで配布する。</p> <p>【参考書等】 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p> | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|------|-----------------------------|-------|-----|------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------------------|----------------------|----------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------|-------------------------|-----------|-----------------------------------|-------------------|---|--|
| 教科 No. | 81048 | 授業科目 | 原典研究（独 b） I・III：読むことで世界を広げる | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 池田晋也（非常勤） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 1. 文章の精読を通して、ドイツ語の能力向上を図る。 2. 音楽に対する見識を深める。</p> <p>【授業概要】 ドイツ語の文章を丁寧に読んでゆく。音楽に関する短いエッセイや物語など、比較的読みやすいものから始める。必要があれば文法を解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。</td> <td>9. Mein Leben mit Robert Schumann</td> </tr> <tr> <td>2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。</td> <td>10. Verzweigung mit Ravel</td> </tr> <tr> <td>3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen</td> <td>11. Lieder im Herbst</td> </tr> <tr> <td>4. Zwischen Lärm und Klang</td> <td>12. Die wahre Welt ist Musik</td> </tr> <tr> <td>5. Klavier spielen können</td> <td>13. Musikstunden</td> </tr> <tr> <td>6. Hüsteln bei Horowitz</td> <td>14. 4'33"</td> </tr> <tr> <td>7. Billie Holiday - Strange Fruit</td> <td>15. Gib mir Musik</td> </tr> <tr> <td>8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p>【履修上の注意】 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p>【教科書】 テキストは授業時に配布する。</p> <p>【参考書等】 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p> | | | | | | 1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。 | 9. Mein Leben mit Robert Schumann | 2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。 | 10. Verzweigung mit Ravel | 3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen | 11. Lieder im Herbst | 4. Zwischen Lärm und Klang | 12. Die wahre Welt ist Musik | 5. Klavier spielen können | 13. Musikstunden | 6. Hüsteln bei Horowitz | 14. 4'33" | 7. Billie Holiday - Strange Fruit | 15. Gib mir Musik | 8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben | |
| 1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。 | 9. Mein Leben mit Robert Schumann | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。 | 10. Verzweigung mit Ravel | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen | 11. Lieder im Herbst | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Zwischen Lärm und Klang | 12. Die wahre Welt ist Musik | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. Klavier spielen können | 13. Musikstunden | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. Hüsteln bei Horowitz | 14. 4'33" | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. Billie Holiday - Strange Fruit | 15. Gib mir Musik | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|------|-----------------------------|-------|-----|------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------------------|----------------------|----------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------|-------------------------|-----------|-----------------------------------|-------------------|---|--|
| 教科 No. | 81049 | 授業科目 | 原典研究（独 b） II・IV：読むことで世界を広げる | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | 池田晋也（非常勤） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 1. 文章の精読を通して、ドイツ語の能力向上を図る。 2. 音楽に対する見識を深める。</p> <p>【授業概要】 ドイツ語の文章を丁寧に読んでゆく。音楽に関する短いエッセイや物語など、比較的読みやすいものから始める。必要があれば文法を解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。</td> <td>9. Mein Leben mit Robert Schumann</td> </tr> <tr> <td>2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。</td> <td>10. Verzweigung mit Ravel</td> </tr> <tr> <td>3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen</td> <td>11. Lieder im Herbst</td> </tr> <tr> <td>4. Zwischen Lärm und Klang</td> <td>12. Die wahre Welt ist Musik</td> </tr> <tr> <td>5. Klavier spielen können</td> <td>13. Musikstunden</td> </tr> <tr> <td>6. Hüsteln bei Horowitz</td> <td>14. 4'33"</td> </tr> <tr> <td>7. Billie Holiday - Strange Fruit</td> <td>15. Gib mir Musik</td> </tr> <tr> <td>8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 出席状況・授業態度等をもとに評価する。</p> <p>【履修上の注意】 辞書は必ず持参すること。文法の知識があいまいな者は、各自が過去に使った教科書などの参考書を携帯すること。</p> <p>【教科書】 テキストは授業時に配布する。</p> <p>【参考書等】 特に指定は無いが、中～上級者向けの辞書を各自で購入しておくことが望ましい。辞書の選び方については初回授業時に説明する。</p> | | | | | | 1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。 | 9. Mein Leben mit Robert Schumann | 2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。 | 10. Verzweigung mit Ravel | 3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen | 11. Lieder im Herbst | 4. Zwischen Lärm und Klang | 12. Die wahre Welt ist Musik | 5. Klavier spielen können | 13. Musikstunden | 6. Hüsteln bei Horowitz | 14. 4'33" | 7. Billie Holiday - Strange Fruit | 15. Gib mir Musik | 8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben | |
| 1. 初回到授業のガイダンスを行い、テキストを決定する。 | 9. Mein Leben mit Robert Schumann | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 以下に幾つかテキストのタイトルを挙げておく。 | 10. Verzweigung mit Ravel | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. Bekenntnisse eines Unmusikalischen | 11. Lieder im Herbst | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. Zwischen Lärm und Klang | 12. Die wahre Welt ist Musik | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. Klavier spielen können | 13. Musikstunden | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. Hüsteln bei Horowitz | 14. 4'33" | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. Billie Holiday - Strange Fruit | 15. Gib mir Musik | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. Die Musik, Das Hören und das Schreiben | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------|------|----------------|-------|-------|---------------------|------|------|-------|------|----------------------|------|-------|------|-------|---------------------|-------|------|-------|------|--|
| 教科 No. | 81050 | 授業科目 | 原典研究（伊 a） I～IV | 単位数 | 各1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | Mauro De Paolis マウロ デ・パオリス（非常勤） | | | 開講学期 | 前期・後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 舞台上に立っているつもりで、発語、演技、ブレス、動き、ジェスチャーをオペラ歌手ができるように！！ RECTAZIONE OPERISTICA AVANZATA</p> <p>【授業概要】 アクセント、イントネーション、読み方、訳し方、演技とジェスチャー全体の動きと、セリフの関係を研究していきます。イタリアの"グランドオペラ"から2,3本の台本を選び、授業を行っていききたいと思います。ビデオも使用します。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. OPERA ITALIANA 1</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. OPERA ITALIANA 3</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. "</td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. OPERA ITALIANA 2</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. "</td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への出席と、全体の授業を見ながら評価する。</p> <p>【履修上の注意】 積極的に参加する。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。</p> <p>【参考書等】 オペラ台本とビデオ</p> <p>※備考 音楽またはオペラの授業と関連している。</p> | | | | | | 1. OPERA ITALIANA 1 | 9. " | 2. " | 10. " | 3. " | 11. OPERA ITALIANA 3 | 4. " | 12. " | 5. " | 13. " | 6. OPERA ITALIANA 2 | 14. " | 7. " | 15. " | 8. " | |
| 1. OPERA ITALIANA 1 | 9. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. " | 10. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. " | 11. OPERA ITALIANA 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. " | 12. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. " | 13. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. OPERA ITALIANA 2 | 14. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. " | 15. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. " | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|------|-------------|-------|-----|----------------------|------------|--------------|-------------|--------------|------------|----------------|------------|----------------|------------|----------------|--|----------------|--|----------------|--|
| 教科 No. | 81051 | 授業科目 | 原典研究（伊b）Ⅰ・Ⅲ | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | Carolina Capasso カロリーナ カパッソ（非常勤） | | | 開講学期 | 前期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 オペラのイタリア語に触れることで、イタリア語の本来もつ「音」の美しさを理解し、その音と意味との交わる点である「詩」を深く理解する。</p> <p>【授業概要】 イタリア語オペラのアリアや場面を原語で読む。発音やアクセントを丁寧に指導するとともに、歌詞のイタリア語のニュアンスを読み込みます。また必要に応じて、オペラに関するエッセイなども読みます。CDやDVDも使用して、実際の音や演出も確認します。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション 授業の説明など</td> <td>9. 夢遊病の女 1</td> </tr> <tr> <td>2. フィガロの結婚 1</td> <td>10. 夢遊病の女 2</td> </tr> <tr> <td>3. フィガロの結婚 2</td> <td>11. 愛の妙薬 1</td> </tr> <tr> <td>4. ドン・ジョヴァンニ 1</td> <td>12. 愛の妙薬 2</td> </tr> <tr> <td>5. ドン・ジョヴァンニ 2</td> <td>13. 前期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6. セヴィリヤの理髪師 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. セヴィリヤの理髪師 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. セヴィリヤの理髪師 3</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 期末試験の点と出席点の総合</p> <p>【履修上の注意】 履修者の希望におうじて、オペラやアリアを変更することもあります。</p> <p>【教科書】 プリント</p> <p>【参考書等】 必要であれば授業の時に紹介します</p> | | | | | | 1. オリエンテーション 授業の説明など | 9. 夢遊病の女 1 | 2. フィガロの結婚 1 | 10. 夢遊病の女 2 | 3. フィガロの結婚 2 | 11. 愛の妙薬 1 | 4. ドン・ジョヴァンニ 1 | 12. 愛の妙薬 2 | 5. ドン・ジョヴァンニ 2 | 13. 前期のまとめ | 6. セヴィリヤの理髪師 1 | | 7. セヴィリヤの理髪師 2 | | 8. セヴィリヤの理髪師 3 | |
| 1. オリエンテーション 授業の説明など | 9. 夢遊病の女 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. フィガロの結婚 1 | 10. 夢遊病の女 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. フィガロの結婚 2 | 11. 愛の妙薬 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. ドン・ジョヴァンニ 1 | 12. 愛の妙薬 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. ドン・ジョヴァンニ 2 | 13. 前期のまとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. セヴィリヤの理髪師 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. セヴィリヤの理髪師 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. セヴィリヤの理髪師 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|------|-------------|-------|-----|--------------|----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|---------------------|-----------|---------------------|------------|---------------------|--|----------|--|
| 教科 No. | 81052 | 授業科目 | 原典研究（伊b）Ⅱ・Ⅳ | 単位数 | 1単位 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 | Carolina Capasso カロリーナ カパッソ（非常勤） | | | 開講学期 | 後期 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>【授業目標】 オペラは外国で最も愛されているイタリアの文化です。オペラの作品を読み、正しく理解をして、イタリアの文化の本質を深く理解しましょう。</p> <p>【授業概要】 7に引きつづきオペラのリブレットを読んで、解説・発音の指導を行います。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>9. トスカ 2</td> </tr> <tr> <td>2. リゴレット 1</td> <td>10. トスカ 3</td> </tr> <tr> <td>3. リゴレット 2</td> <td>11. 道化師 1</td> </tr> <tr> <td>4. リゴレット 3</td> <td>12. 道化師 2</td> </tr> <tr> <td>5. カヴァレリア・ルスティカーナ 1</td> <td>13. 道化師 3</td> </tr> <tr> <td>6. カヴァレリア・ルスティカーナ 2</td> <td>14. 後期のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7. カヴァレリア・ルスティカーナ 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. トスカ 1</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 後期試験と出席点の総合</p> <p>【履修上の注意】 希望や意見があれば、どんどん口に出して言ってみましょう。</p> <p>【教科書】 プリント</p> <p>【参考書等】 必要であれば授業の時に紹介します。</p> | | | | | | 1. オリエンテーション | 9. トスカ 2 | 2. リゴレット 1 | 10. トスカ 3 | 3. リゴレット 2 | 11. 道化師 1 | 4. リゴレット 3 | 12. 道化師 2 | 5. カヴァレリア・ルスティカーナ 1 | 13. 道化師 3 | 6. カヴァレリア・ルスティカーナ 2 | 14. 後期のまとめ | 7. カヴァレリア・ルスティカーナ 3 | | 8. トスカ 1 | |
| 1. オリエンテーション | 9. トスカ 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. リゴレット 1 | 10. トスカ 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. リゴレット 2 | 11. 道化師 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. リゴレット 3 | 12. 道化師 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. カヴァレリア・ルスティカーナ 1 | 13. 道化師 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. カヴァレリア・ルスティカーナ 2 | 14. 後期のまとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. カヴァレリア・ルスティカーナ 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. トスカ 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | |
|----------------|-------|------|--------------|-------------------------------|-------|
| 教科 No. | 81053 | 授業科目 | 原典研究（日） I～IV | 単位数 | 1単位 |
| 担当教員 | (休講) | | | 開講学期 | 前期・後期 |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生(ただし、日本語を母国語としない者のみ履修可能) | |
| <h1>今年度休講</h1> | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|------|-----------------|-------|-------|--|---|
| 教科 No. | 81054 | 授業科目 | 原典研究（日本古典） I～IV | 単位数 | 各1単位 | | |
| 担当教員 | 藤田隆則（日本伝統音楽研究センター） | | | 開講学期 | 前期・後期 | | |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | | | |
| <p>【授業目標】 謡曲（能楽の音曲）を読むことをつうじて、日本における言葉と音楽・舞踊のかかわりのあり方を理解する</p> <p>【授業概要】 能楽のテキストは、日本を代表する文学である源氏物語や平家物語、また、仏教にかんする知識がなければ十分に読み解くができない。また、韻文で書かれているため、和歌を読解する力も必要とされる。この授業では、謡の韻律法などに注意を向けながら、謡の言葉を正確に音読し、それがいかなる旋律や演出と関係づけられていくのかということについて、具体的な作品をとりあげながら読み進めていく。</p> <p>【授業内容】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 前期の概要解説 2. 作品を知る―当麻 3. 作品を知る―海士 4. 作品を知る―誓願寺 5. 作品を知る―呉服 6. 作品を読む―音楽と演出 7. 前期のまとめ 8. 後期の概要解説 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. ひとつの作品を総合的に読む―テキストの翻訳 10. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の校合 11. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の節の読解 12. ひとつの作品を総合的に読む―鼓の楽譜の読解 13. ひとつの作品を総合的に読む―笛の楽譜の読解 14. ひとつの作品を総合的に読む―舞譜の読解 15. 後期のまとめ </td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業の出席と課題</p> <p>【履修上の注意】 声をだしたり、手を動かすことを求めます。</p> <p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書等】</p> | | | | | | 1. 前期の概要解説 2. 作品を知る―当麻 3. 作品を知る―海士 4. 作品を知る―誓願寺 5. 作品を知る―呉服 6. 作品を読む―音楽と演出 7. 前期のまとめ 8. 後期の概要解説 | 9. ひとつの作品を総合的に読む―テキストの翻訳 10. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の校合 11. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の節の読解 12. ひとつの作品を総合的に読む―鼓の楽譜の読解 13. ひとつの作品を総合的に読む―笛の楽譜の読解 14. ひとつの作品を総合的に読む―舞譜の読解 15. 後期のまとめ |
| 1. 前期の概要解説 2. 作品を知る―当麻 3. 作品を知る―海士 4. 作品を知る―誓願寺 5. 作品を知る―呉服 6. 作品を読む―音楽と演出 7. 前期のまとめ 8. 後期の概要解説 | 9. ひとつの作品を総合的に読む―テキストの翻訳 10. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の校合 11. ひとつの作品を総合的に読む―謡本の節の読解 12. ひとつの作品を総合的に読む―鼓の楽譜の読解 13. ひとつの作品を総合的に読む―笛の楽譜の読解 14. ひとつの作品を総合的に読む―舞譜の読解 15. 後期のまとめ | | | | | | |

| | | | | | |
|--------|-------|------|----------|-------|---------|
| 教科 No. | 81061 | 授業科目 | 宗教音楽研究 | 単位数 | 2単位 |
| 担当教員 | (休講) | | | 開講学期 | 前期または後期 |
| 履修条件 | なし | | 履修学年・専攻等 | 1・2回生 | |

今年度休講